小島仕切沢南遺跡

－Ａ地点の調査－

2023

本 庄 市 教 育 委 員 会

本庄市埋蔵文化財調査報告書　第74集

小島仕切沢南遺跡

－Ａ地点の調査－

2023

本 庄 市 教 育 委 員 会

序

埼玉県の北西部に位置する本庄市は、埼玉県指定史跡の「鷺山古墳」や「雉岡城跡」をはじめ、数多くの遺跡と歴史的建造物に恵まれた地域です。

市内には旧石器時代から近世に至るまで500か所を超える遺跡が所在し、近代以降においても競進社模範蚕室や旧本庄商業銀行煉瓦倉庫等の蚕業・製糸業に関わる建造物が多く残ります。

さて、本書に報告する小島仕切沢南遺跡は、本庄台地北端部に所在する飛鳥時代から平安時代を中心とする集落遺跡です。今回の調査では、主に同時期の竪穴住居跡と多数の土師器が検出されました。

これまでに行われた周辺の調査としては、本遺跡北側の小島仕切沢遺跡における平成30年度発掘調査があり、同様に、遺構・遺物が豊富に検出されています。これらのことから、この遺跡周辺が長期的に生活されてきた大規模な集落域であったことが分かりました。

また、本遺跡の特徴として、土師器の坏が非常に多く検出されていることが挙げられます。前述の隣接する小島仕切沢遺跡でも同様であったことから、両遺跡における共通した要素として注目されます。

本書は分譲住宅の建築工事に先立って実施した発掘調査の成果をまとめたものでありますが、本庄市の歴史を考えるうえで重要な資料の一つでもあります。本書が学術的な資料としてはもとより、地域の歴史を理解する一助として、広く多くの皆様にご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、ご尽力いただきました一建設株式会社様、野口三郎様をはじめ、様々なご協力やご教示を賜りました関係諸機関並びに関係者の皆様に対しまして、心からお礼を申し上げます。

令和５年７月

本庄市教育委員会
教育長　下野戸　陽子

例　言

1．　本書は、埼玉県本庄市小島六丁目 1351、1353-1, 2, 5 に所在する小島仕切沢南遺跡のＡ地点の発掘調査報告書である。

2．　小島仕切沢南遺跡（おじましきりざわみなみいせき）は、旧名称：本庄 12 号遺跡であり、本発掘調査を実施するにあたり、令和５年２月１日付け本教文発第 451 号「埼玉県埋蔵文化財包蔵地調査カード（変更増補）」及び令和５年２月１日付け教文資第９－ 49 号「埋蔵文化財包蔵地の周知について（通知）」によって、小島仕切沢南遺跡に名称が変更された。

3．　発掘調査は、分譲住宅建設に伴う事前の記録保存を目的として、令和４年度に実施した。

4．　発掘調査は、一建設株式会社の委託を受けて、本庄市教育委員会が実施し、的野善行が担当した。現地調査は、宮田忠洋（有限会社毛野考古学研究所）が専従した。

5．　発掘調査から報告書作成・刊行に至る経費は、野口三郎氏が負担した。

6．　発掘調査面積は、170 ㎡である。

7．　発掘調査期間及び整理調査期間は、以下のとおりである。

　発掘調査　　自　令和５年２月９日　　至　令和５年３月20日

　整理調査　　自　令和５年３月22日　　至　令和５年７月19日

8．　発掘調査にかかわる基準点測量・遺構測量は齊藤雄介（有限会社毛野考古学研究所）、空中写真撮影は小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が行った。

9．　整理作業・報告書刊行にかかわる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。

10.　本書の執筆は、第Ⅰ章を本庄市教育委員会事務局、第Ⅱ章を車﨑正彦（有限会社毛野考古学研究所）、第Ⅲ・Ⅳ章を宮田が担当し、編集を的野と宮田が行った。遺物の実測及び観察表は車﨑、遺物写真撮影は井上太（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

11.　本書に掲載した出土遺物、遺構・遺物の実測図及び写真、その他本報告に関連する資料は、本庄市教育委員会で保管している。

12.　本報告にかかる発掘調査、整理作業及び報告書編集・刊行に関する本庄市教育委員会の組織は、下記のとおりである。

　小島仕切沢南遺跡Ａ地点発掘調査組織（令和４・５年度）

主体者	本庄市教育委員会	
	教　育　長	下野戸　陽子
事務局	事　務　局　長	高橋　利征（令和４年度）
		笠原　栄作（令和５年度）
文化財保護課	課　　長	折茂　勝彦
	課　長　補　佐	細野　房保
	課　長　補　佐	山田　修　（令和４年度）
	課　長　補　佐	橋爪　里佳（令和５年度）
	課　長　補　佐	的野　善行（令和５年度）
	埋蔵文化財係長	的野　善行
	主　　任	鈴木　まゆみ
	主　　任	水野　真那（令和５年度）
	専　門　員	徳山　寿樹
	主　　事	福岡　佑斗
	主　　事	水野　真那（令和４年度）
	調 査 支 援 員	宮田　忠洋（有限会社毛野考古学研究所）

13.　発掘調査及び本書の作成にあたって、下記の方々、諸調査機関よりご助力・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略）

　生野　一志、池田　匡彦、井上　裕一、金子　彰男、北山　直人、馬場　匡浩、林　道義、丸山　修

　山本　良太、児玉郡神川町教育委員会、児玉郡上里町教育委員会、児玉郡美里町教育委員会

　埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、早稲田大学考古資料館

凡　例

1．　遺構平面図中の北方位は座標北を、断面図の水準線数値は標高を示し、単位はmである。座標は、世界測地系第Ⅸ系を用いている。

2．　土層及び土器の色調、土層説明における含有量は、『新版　標準土色帖』2007 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。含有量は、面積割合によって、大量（50％以上）、多量（30％以上～ 50％未満）、少量（10％以上～ 30％未満）、微量（10％未満）とした。

3．　本書で使用した地図は、以下のとおりである。

第１図：本庄市都市計画図　1/2,500（平成 10 年測量、平成 25 年修正）

第２図：堀口万吉「Ⅱ　埼玉県の地形と地質」『新編埼玉県史　別編３　自然』1986

第３図：国土地理院発行　電子地形図 25000「本庄」「伊勢崎」（平成 26 年調製）

4．　遺構図は、全体図を 1/160、掘立柱建物跡柱間寸法図を 1/120、住居跡カマドの平面図・断面図を 1/30、その他の遺構平面図・断面図を 1/60・1/80 で掲載した。なお、各挿図中にはスケールを付している。

5．　遺構図中のスクリーントーン及び破線は、以下のとおりである。ローム層中の破線は、遺構確認面を表している。

地山の関東ローム層・砂礫層　▶ -------- 遺構確認面

炭化物範囲　灰範囲　粘土範囲　-------- 硬化面範囲

6．　本文中や土層説明中における火山噴出物は、1783（天明３）年に浅間山から噴出した浅間Ａ軽石を As-A、1108（天仁元）年に浅間山から噴出した浅間Ｂテフラを As-B と表記した。

7．　遺物実測図は、土器完形・復元個体を 1/4、土器破片・土製品・鉄製品・ガラス製品を 1/3、石製品を 1/2・1/3 で掲載した。なお、各挿図中にはスケールを付している。

8．　遺物番号は、遺物実測図・出土遺物観察表・写真図版ともに共通である。

9．　出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。

Ａ－法量・重量（単位は cm・ｇ）、Ｂ－成形、Ｃ－整形・調整、Ｄ－胎土・材質、Ｅ－色調、Ｆ－残存度、Ｇ－備考、Ｈ－出土層位・位置

10．　本文中及びピット計測表・出土遺物観察表における（ ）は復元値、［ ］は残存値を示す。

目　　次

序
例言
凡例

第Ⅰ章　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第Ⅱ章　遺跡の地理的・歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　第１節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第Ⅲ章　検出された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　第１節　遺跡の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　第２節　基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　第３節　検出された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　　　１．竪穴住居跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　　　２．掘立柱建物跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
　　　　３．土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
　　　　４．溝跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
　　　　５．ピット群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
　　　　６．調査区内出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

第Ⅳ章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

写真図版
報告書抄録
奥付

挿図目次

第１図　調査区位置図　・・・・・・・・・・・・・・・　1
第２図　埼玉県の地形　・・・・・・・・・・・・・・・　2
第３図　周辺の主要遺跡　・・・・・・・・・・・・・・　3
第４図　基本層序　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
第５図　Ａ地点全体図　・・・・・・・・・・・・・・・　5
第６図　第１号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　6
第７図　第１号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　6
第８図　第２号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　7
第９図　第２号住居跡カマド　・・・・・・・・・・・　8
第10図　第２号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　8
第11図　第３号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　9
第12図　第３号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　10
第13図　第４号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　11
第14図　第４号住居跡カマド　・・・・・・・・・・・　11
第15図　第４号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　12
第16図　第５・９号住居跡　・・・・・・・・・・・・　13
第17図　第５号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　13
第18図　第６号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　15
第19図　第６号住居跡カマド　・・・・・・・・・・・　16
第20図　第６号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　17
第21図　第７号住居跡（１）　・・・・・・・・・・・　18
第22図　第７号住居跡（２）　・・・・・・・・・・・　19
第23図　第７号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　19
第24図　第８号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　20
第25図　第８号住居跡カマド　・・・・・・・・・・・　20
第26図　第８号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　21
第27図　第９号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　22
第28図　第10号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　23
第29図　第10号住居跡カマド　・・・・・・・・・・・　23
第30図　第10号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　24
第31図　第11号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・　25
第32図　第11号住居跡カマド　・・・・・・・・・・・　25
第33図　第11号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　25
第34図　第12・13号住居跡（１）　・・・・・・・・・　27
第35図　第12・13号住居跡（２）　・・・・・・・・・　28
第36図　第12・13号住居跡（３）　・・・・・・・・・　29
第37図　第12号住居跡出土遺物　・・・・・・・・・・　29
第38図　第１号掘立柱建物跡　・・・・・・・・・・・　31
第39図　第２号土坑出土遺物　・・・・・・・・・・・　32
第40図　土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
第41図　第１・２号溝跡　・・・・・・・・・・・・・　35
第42図　第３・４号溝跡　・・・・・・・・・・・・・　36
第43図　Ａ・Ｂ区ピット群　・・・・・・・・・・・・　37
第44図　第21号ピット出土遺物　・・・・・・・・・・　40
第45図　調査区内出土遺物　・・・・・・・・・・・・　40

表目次

第１表　第１号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　6
第２表　第２号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　9
第３表　第３号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　10
第４表　第４号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　12
第５表　第５号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　14
第６表　第６号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　17
第７表　第７号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　19
第８表　第８号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　21
第９表　第９号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　22
第10表　第10号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　24
第11表　第11号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　26
第12表　第12号住居跡出土遺物観察表　・・・・・・　30
第13表　第１号掘立柱建物跡ピット計測表　・・・・　31
第14表　第２号土坑出土遺物観察表　・・・・・・・　32
第15表　ピット計測表（１）　・・・・・・・・・・・　38
第16表　ピット計測表（２）　・・・・・・・・・・・　39
第17表　第21号ピット出土遺物観察表　・・・・・・　40
第18表　調査区内出土遺物観察表　・・・・・・・・・　40

写真目次

図版１　小島仕切沢南遺跡Ａ地点遠景（西より）
　　小島仕切沢南遺跡Ａ地点全景（左下が北）
図版２　第１号住居跡
　　第２号住居跡
　　第２号住居跡カマド
　　第３号住居跡
　　第４号住居跡
　　第５号住居跡
　　第６号住居跡
　　第６号住居跡カマド
図版３　第７号住居跡
　　第７号住居跡P1遺物出土状況
　　第８号住居跡
　　第８号住居跡カマド
　　第９号住居跡
　　第10号住居跡
　　第10号住居跡カマド
　　第10号住居跡遺物出土状況
図版４　第11号住居跡
　　第11号住居跡カマド
　　第11号住居跡カマド出土遺物近景
　　第12・13号住居跡
　　第12号住居跡遺物出土状況
　　第12号住居跡出土遺物近景
　　第１号掘立柱建物跡
　　第１号土坑
図版５　第２号土坑
　　第４号土坑
　　第５号土坑
　　第６号土坑
　　第１・２号溝跡
　　第３・４号溝跡
　　Ａ区ピット群
　　Ｂ区ピット群
図版６　第１号住居跡出土遺物
　　第２号住居跡出土遺物
　　第３号住居跡出土遺物
　　第４号住居跡出土遺物
　　第５号住居跡出土遺物
　　第６号住居跡出土遺物
　　第７号住居跡出土遺物
図版７　第８号住居跡出土遺物
　　第９号住居跡出土遺物
　　第10号住居跡出土遺物
　　第11号住居跡出土遺物
図版８　第12号住居跡出土遺物
　　第２号土坑出土遺物
　　第21号ピット出土遺物
　　調査区内出土遺物

第Ⅰ章　調査に至る経緯

令和４年５月 19 日（木）、本庄市小島６丁目 1351、1353-1、1353-2、1353-5 において、分譲住宅建設を計画している一建設株式会社（代表取締役　堀口忠美）より、同開発予定地に関する『埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて（照会）』の照会文書が、本庄市教育委員会に提出された。

これを受けて、市教育委員会は、埼玉県教育委員会発行の『埼玉県遺跡地図』をもとに、同地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しているか照会を行ったところ、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である本庄 12 号遺跡内に所在していることが判明した。

そのため、市教育委員会では、当該事業計画地について遺跡保存のための基礎資料を得るために令和４年８月２～６日にかけて現地調査を実施した。試掘調査の結果、事業予定地内にて保存対象となる埋蔵文化財として、竪穴住居跡と土坑、多数の土師器片が検出された。

この試掘調査の結果に基づいて、事業主と開発予定地に所在する埋蔵文化財の保存について協議を実施したが、計画変更等は困難であるため、事業予定地内において、工事により保存されない範囲を発掘調査し、記録保存の措置をとることとなった。また、事業主より、本発掘調査にかかる発注者は、土地所有者である野口三郎氏となる旨の連絡があった。

かくして、令和４年 12 月 23 日（金）に発注者と本庄市の間で遺跡発掘調査委託契約を締結し、現地における発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査に関わる通知は、一建設株式会社より文化財保護法第 93 条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和４年５月 19 日付）が、本庄市教育委員会の進達文（令和５年２月 15 日付本教文発第 448 号）を副えて、埼玉県教育委員会に提出された。埼玉県教育委員会からは、開発工事着工前に発掘調査を実施する旨の指示が記された「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」（令和５年３月 31 日付教文資第４-2247 号）が事業主に通知された。

また、遺跡の名称について新たに小島仕切沢南遺跡とする旨の変更増補が令和５年２月１日付けで、文化財保護法第 99 条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」（令和５年６月 12 日付本教文発第 81 号）が、いずれも本庄市教育委員会から埼玉県教育委員会に提出された。

なお、現地における発掘調査は令和５年２月９日（木）から同年３月 20 日（月）の日程で行われた。

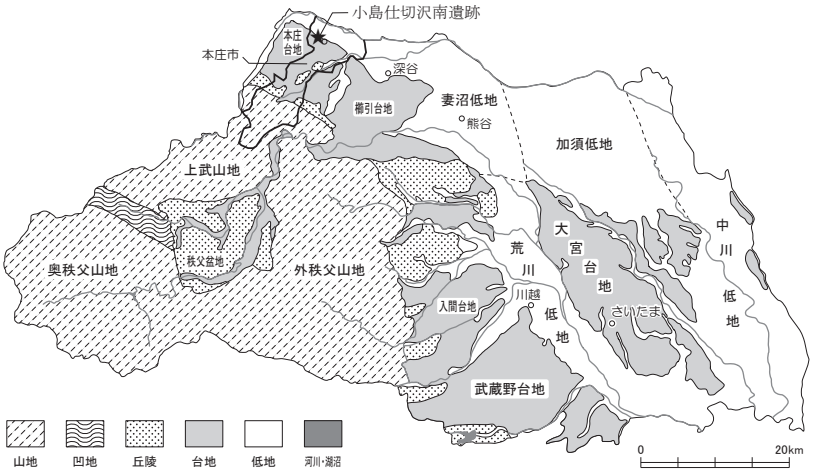
（本庄市教育委員会事務局）

第１図　調査区位置図

第Ⅱ章　遺跡の地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

本遺跡は、埼玉県北西部の本庄市に所在し、JR 本庄駅の北西 1.5km に位置する（第２図）。本庄市の東は深谷市、西は児玉郡上里町・神川町、南は児玉郡美里町・秩父郡長瀞町・皆野町、北は群馬県伊勢崎市と接する。



第２図　埼玉県の地形

本市の地形は、南西部の山地と丘陵、中央部の台地、北東部の低地に大きく分けられる。山地は上武山地北縁の山々が連なり、谷筋は女堀川や小山川（旧身馴川）などの水源になっている。山地の北麓には児玉丘陵が半島状に幾筋も延び、丘陵の北東端は生野山や浅見山（大久保山）など残丘が発達している。児玉丘陵の北東に扇形に広がる本庄台地は緩やかに傾斜する平坦な台地で、西は神流川低地、北は妻沼低地、東は小山川で境される。妻沼低地は神流川低地から接続して東南東に開ける低地で、利根川の流向による自然堤防が発達している。

本遺跡が立地する本庄台地北縁部は、深谷断層の切り立った急段崖を境として利根川右岸の妻沼低地に臨み、崖下には湧水が多く、崖に沿って元小山川が流れている。

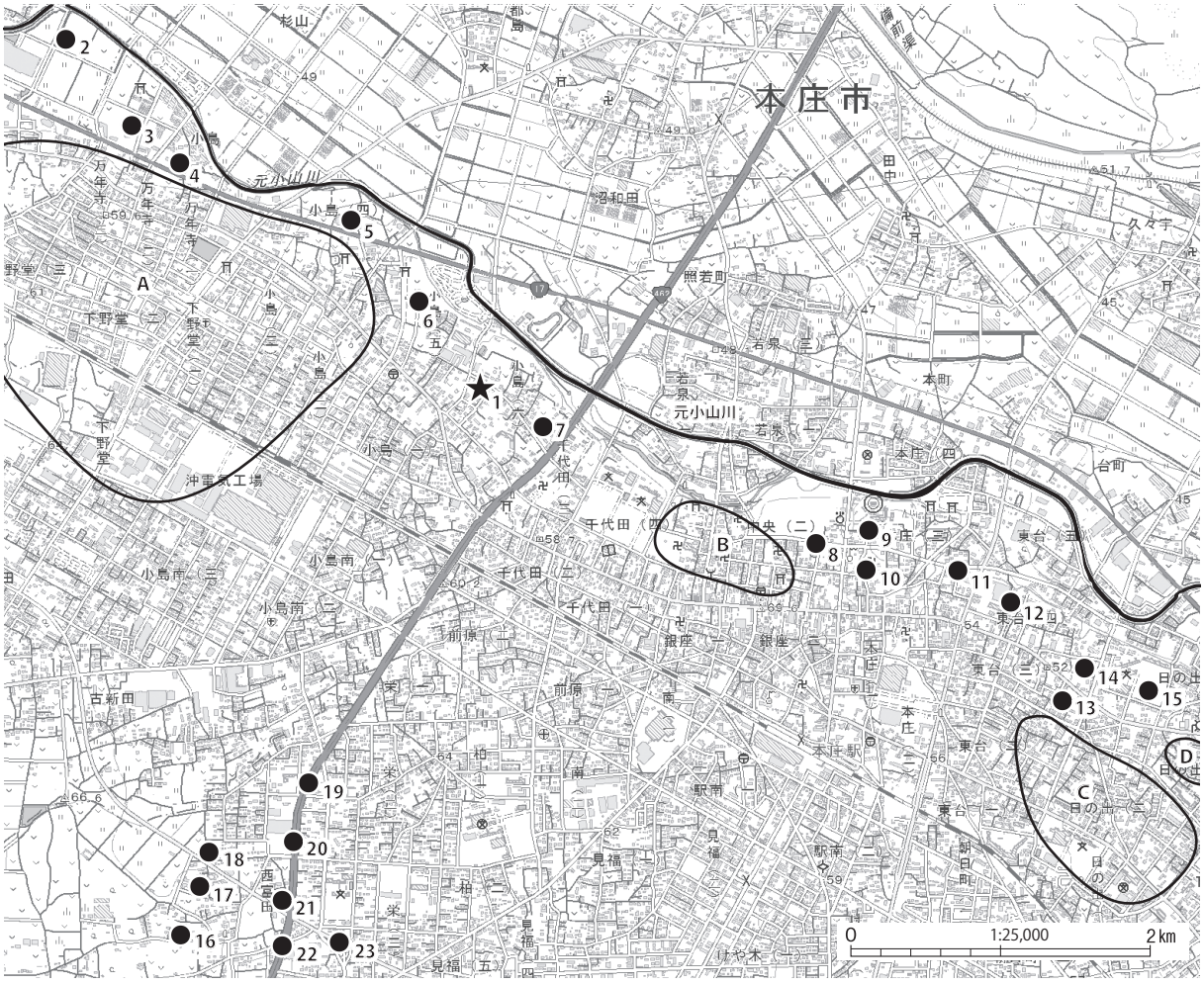
第２節　歴史的環境

本遺跡（１）周辺の古墳時代から中世にかけての遺跡について概観する（第３図）。古墳時代前期の集落は女堀川流域の自然堤防や微高地に出現する。中期の居住域は本庄台地の南縁部から内奥部へ拡大し、西富田新田遺跡（16）、夏目西遺跡（17）、弥藤次遺跡（18）、二本松遺跡（19）、西富田遺跡（20）、夏目遺跡（21）、社具路遺跡（22）、薬師元屋舗遺跡（23）など多くの集落が形成される。中期後半には新技術の導入による開発が想定され、台地北縁部でも小島本伝遺跡（５）、小島仕切沢遺跡（７）、本庄中北原遺跡（８）、本庄城跡（９）、城山遺跡（10）、薬師堂東遺跡（15）などに集落が営まれ、後期から終末期にかけて集落の増加、居住域の拡大が続き、本庄城跡や薬師堂東遺跡などは遺構が隙間なく密集する。なお、薬師堂東遺跡はガラス小玉鋳型や棒状土製品が多数出土し、この時期のガラス小玉工房の存在が推定されている。台地北縁部には旭・小島古墳群（A）、北原古墳群（B）、塚合古墳群（C）、御堂坂古墳群（D）が分布する。旭・小島古墳群には中期から終末期にかけて 150 基以上の古墳が造営され、百八塚と称される塚合古墳群にも中期後半から終末期まで多数築かれた。

律令期には本庄市域のほとんどが児玉郡に属し、薬師元屋舗遺跡周辺は紡錘車刻書「武蔵国児玉郡草田郷戸主大田部身万呂」によって草田郷に比定されている。また、北西部の小島周辺は賀美（加美）郡小島郷の比定地にあたる。台地北縁部の奈良・平安時代の集落は石神境遺跡（３）、本庄２号遺跡（４）、

小島本伝遺跡、本遺跡、小島仕切沢遺跡、本庄中北原遺跡、本庄城跡、天神林遺跡（11）、天神林Ⅱ遺跡（12）、本庄飯玉遺跡（13）、薬師堂遺跡（14）、薬師堂東遺跡、御堂坂遺跡が浅い谷で区切られながら連なっている。これらの遺跡では土錘が多く出土し、淡水魚の網漁が推察されている。また、台地下の微高地に立地する石神境遺跡は土師器坏の生産が推定されている。

中世の児玉郡は武蔵七党の児玉党の本貫地で、児玉党諸氏に因む地名が多い。浅見山丘陵周辺は児玉党嫡流の庄氏の本拠で、本宗家の館と伝える栗崎館跡、菩提寺の宥荘寺とされる大久保山寺院跡、宝篋印塔・五輪塔や梵字印刻蔵骨器が出土した東谷中世墓群などが立地する。これに対して台地北縁部の小島氏館跡（６）は賀美郡小島郷を本拠とする丹党小島氏の居館と伝わる。また、15 世紀中頃の五十子陣は古河公方足利成氏と敵対する関東管領上杉房顕が拠点として構えた陣で、女堀川と小山川の合流点を本陣として将兵が駐屯する関東の軍事・政治の中心地であった。本陣の南の東五十子田端屋敷遺跡には溝で区画された屋敷がならび、風雅な香炉や風炉、火鉢などの出土から有力武将の布陣が推定されている。五十子陣に関連する遺跡は女堀川と小山川に挟まれた台地を中心に広範囲に分布し、台地北縁部の薬師堂東遺跡の堀跡も五十子陣に関わる施設の可能性がある。



1. **小島仕切沢南遺跡**　2. 北稲塚遺跡（上里町）　3. 石神境遺跡　4. 本庄２号遺跡　5. 小島本伝遺跡　6. 小島氏館跡　7. 小島仕切沢遺跡　8. 本庄中北原遺跡　9. 本庄城跡　10. 城山遺跡　11. 天神林遺跡　12. 天神林Ⅱ遺跡　13. 本庄飯玉遺跡　14. 薬師堂遺跡　15. 薬師堂東遺跡　16. 西富田新田遺跡　17. 夏目西遺跡　18. 弥藤次遺跡　19. 二本松遺跡　20. 西富田遺跡　21. 夏目遺跡　22. 社具路遺跡　23. 薬師元屋舗遺跡　A. 旭・小島古墳群　B. 北原古墳群　C. 塚合古墳群　D. 御堂坂古墳群

第３図　周辺の主要遺跡

第Ⅲ章　検出された遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

小島仕切沢南遺跡は、本庄市小島に所在し、本庄台地北縁部に立地している。本遺跡は、『埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ（本庄市遺跡地図）』等では、周知の埋蔵文化財包蔵地である「本庄 12 号遺跡」として登録されているが、本調査にあたり「小島仕切沢南遺跡」に名称変更を行っている。今回の調査は、第１次調査（Ａ地点）となる。

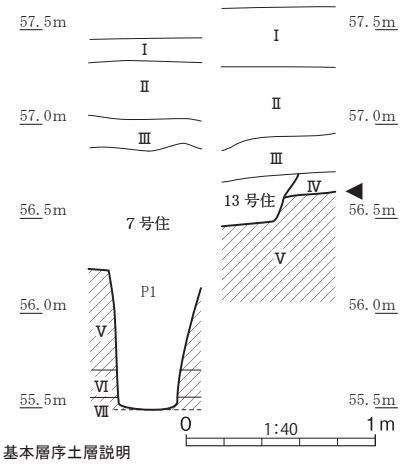
調査では、竪穴住居跡 13 軒、掘立柱建物跡１棟、土坑６基、溝跡４条、ピット 84 基が検出された。竪穴住居跡はＡ区で２軒、Ｂ区で 11 軒確認され、それぞれ飛鳥時代から平安時代に比定される。Ｂ区で検出された掘立柱建物跡は、柱穴の配置から側柱建物と想定される。土坑は、Ａ・Ｂ区の南半部に集中する。溝跡は、調査区を横断するように、北西から南東方向に延びている。ピットは、Ａ区では調査区全体に点在していたが、Ｂ区では南西側でピット同士が重複しながら密集している。

遺物は、各遺構から縄文土器、土師器、須恵器、陶器、土製品（土錘･焼成粘土塊）、石製品（勾玉･剣形）、鉄製品（鏃・鎌）、ガラス製品（薬瓶）が出土している。

なお､本遺跡北側に位置する｢小島仕切沢遺跡｣では､平成 30(2018)年に発掘調査が行われている(第１図)。検出された 24 軒の竪穴住居跡はいずれも古墳時代から平安時代に帰属しており、同時期の竪穴住居跡が確認された本遺跡との関連性が窺われる。

第２節　基本層序

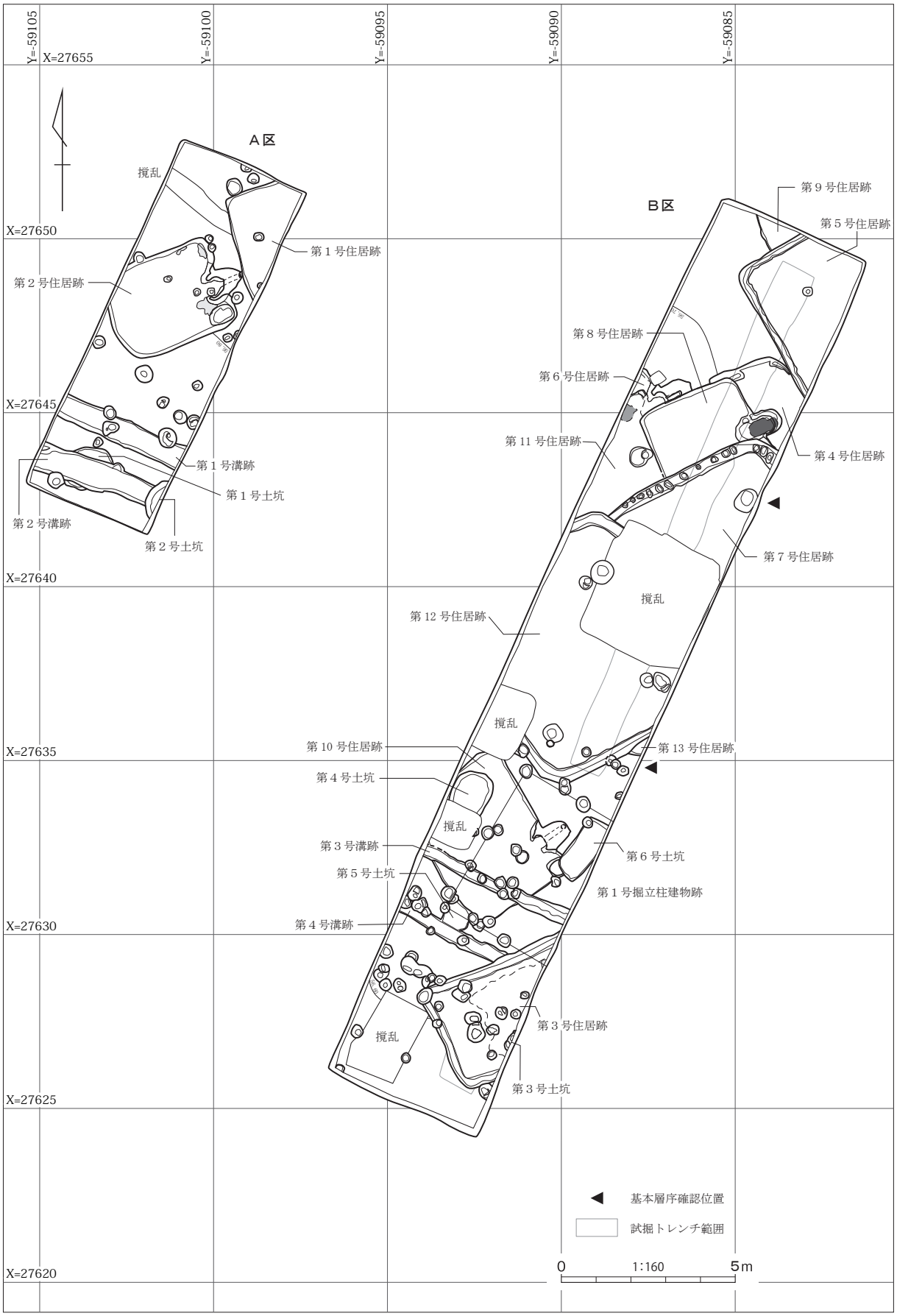
基本層序は、Ｂ区東側壁面で確認した（第４・５図）。土層は第Ⅰ層から第Ⅶ層に分層し、第Ⅴ層を遺構確認面とした。第Ⅰ層は現代の砕石層である。この層を掘り込み、遺構の一部を削平し､第Ⅴ層まで到達する撹乱がＢ区で確認されている。第Ⅱ層は、As-A を大量に含む灰黄褐色土が堆積する旧耕作土層である。第 10・12 号住居跡を削平する撹乱は、本層を掘り込んでいる。第Ⅲ層は、As-B（肉眼観察）・炭化物・焼土粒子とともに、微細な土器片を含む褐灰色土層である。竪穴住居跡や土坑、溝跡は、この層に被覆されている。調査区壁際で確認されたピットのいくつかはこの層を掘り込んでいる。遺構の埋没状況や層中の含有物から、今回の調査では、本土層を中世以降の整地・造成層と想定した。第Ⅳ層は褐色土層である。竪穴住居跡などは、この層を掘り込んでいる。第Ⅴ層は明黄褐色土で、ローム土層である。層中に礫を多く含み、観察した限り、下位の第Ⅵ・Ⅶ層に至るまでの層厚が一定ではない。なお、本層はさらに細分できるものと思われる。第Ⅵ層は灰オリーブ色シルト層、第Ⅶ層は砂礫層である。第Ⅵ層は第７号住居跡Ｐ２壁面、第Ⅶ層は、第７号住居跡Ｐ１～３、第 12 号住居跡Ｐ１～３の壁面及び底面で確認できた。



基本層序土層説明

第Ⅰ層：砕石	現代の整地層。
第Ⅱ層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性弱い。As-A 多量。
第Ⅲ層：褐灰色土層	しまりあり。粘性弱い。As-B・微細土器片少量、焼土粒子（径 0.1～0.2cm）・炭化物（径 0.1～0.2cm）・礫（径１～10 cm）微量。
第Ⅳ層：褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径 0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径 0.1～0.2cm）少量、礫（径１～５cm）微量。
第Ⅴ層：明黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。灰白色粒子（径 0.1～0.2cm）・礫（径１～５cm）少量。
第Ⅵ層：灰オリーブ色シルト層	しまり弱い。粘性あり。
第Ⅶ層：灰黄褐色砂礫層	しまり弱い。粘性弱い。砂礫（0.2～10cm）多量。

第４図　基本層序


Y=-59105
X=27655
Y=-59100
Y=-59095
Y=-59090
Y=-59085
X=27650
X=27645
X=27640
X=27635
X=27630
X=27625
X=27620
A区
B区
撹乱
第1号住居跡
第2号住居跡
第1号溝跡
第1号土坑
第2号溝跡
第2号土坑
第9号住居跡
第5号住居跡
第8号住居跡
第6号住居跡
第11号住居跡
第4号住居跡
第7号住居跡
第12号住居跡
第10号住居跡
第13号住居跡
第4号土坑
第3号溝跡
第5号土坑
第6号土坑
第1号掘立柱建物跡
第4号溝跡
第3号住居跡
第3号土坑
基本層序確認位置
試掘トレンチ範囲
0
1:160
5m

第５図　Ａ地点全体図

第３節　検出された遺構と遺物

１．竪穴住居跡

第１号住居跡（第６・７図、第１表、図版２・６）

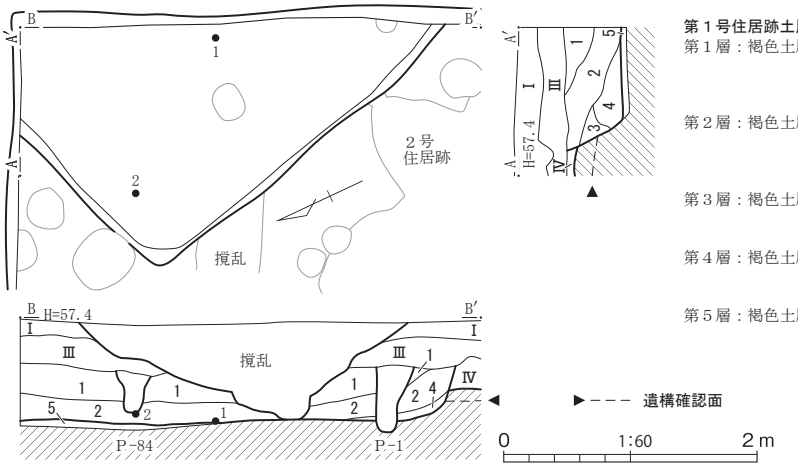
Ａ区北東端に位置する。重複する第２号住居跡、Ｐ－１・11・12・84 に切られている。

住居跡の東側は調査区外にあるため全容は不明であるが、残存する部分から推測すると、平面形はコーナーに丸みをもつ隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈していると思われる。規模は、南北方向が 3.10 m以上、東西方向が 2.18 m以上を測る。住居跡の南北軸方位は、Ｎ－16°－Ｗを向いている。

壁は、急な角度をもって立ち上がる。確認面から床面までの深さは、22cm である。ローム面を床面とするが、部分的にローム粒子やロームブロックを含む褐色土で構築した平坦面をもち、踏み締めによる硬化が認められた。カマドまたは炉跡、ピット、壁溝は検出できなかった。

遺物は、覆土下層及び床面付近から少量出土している。出土した遺物のうち、２点を図示する（第７図）。１の土師器坏は住居中央部の床面直上、２の土師器坏は覆土下層から検出された。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代から奈良時代（７世紀後半～８世紀前半）と考えられる。



第１号住居跡土層説明

第１層：褐色土層　しまりあり。粘性あり。灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・礫（径0.6～２cm）微量。

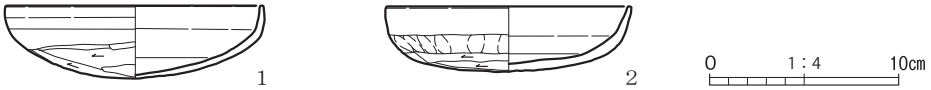
第２層：褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第３層：褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・礫（径0.6～２cm）微量。

第４層：褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第５層：褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）微量。

第６図　第１号住居跡



第７図　第１号住居跡出土遺物

第１表　第１号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 13.7、器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデの後底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－橙色、内－明赤褐色。E. 石英・角閃石・白色粒。F. ほぼ完形。G. 内面にタール状付着物。H. 床面。
2	坏	A. 口径 13.0、器高 3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外－橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 完形。H. 覆土下層。

第２号住居跡（第８～10 図、第２表、図版２・６）

Ａ区中央に位置する。重複する第１号住居跡を切り、Ｐ－３・４・18 に切られている。

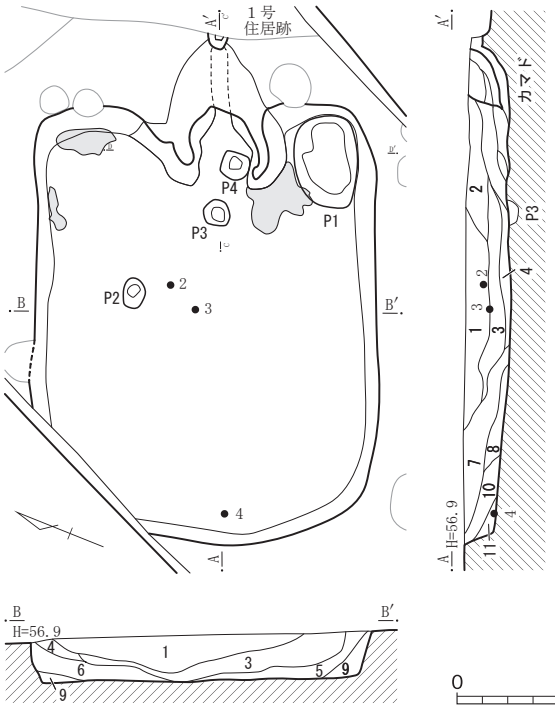
住居跡の一部は調査区外にあるが、平面形はコーナーに丸みをもつ隅丸長方形を呈している。規模は、東西方向が 3.50 m、南北方向が 2.71 mを測る。住居跡の主軸方位は、Ｎ－68°－Ｅを向いている。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは、33cmである。壁溝は、検出されなかった。ローム面を床面としており、踏み締めによる硬化が部分的に認められる。ピットは、住居南東隅とカマド前、中央やや西寄りから、Ｐ１～４の４基が検出されている。Ｐ１は検出位置と規模から、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、73 × 50cmの不整楕円形を呈し、床面からの深さは17cmを測る。Ｐ２は24 × 18cmの楕円形を呈し、床面からの深さは15cmを測る。Ｐ３は20 × 20cmの不整形を呈し、床面からの深さは８cmを測る。Ｐ４は23 × 22cmの不整形を呈し、床面からの深さは20cmを測る。

カマドは、住居北東壁やや南寄りの位置に、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、残存長123cm、最大幅125cmを測る。焚口部の幅は、43cmを測る。燃焼部は住居壁より内側に設けている。燃焼部底面は、住居床面とほぼ同じ高さで平坦に構築されている。燃焼部奥壁から煙道部壁面にかけて被熱痕跡が認められる。焚口部から燃焼部奥壁までは、49 ～ 58cmを測る。袖部は、灰黄褐色粘土ブロックやローム粒子、焼土粒子、焼土ブロックを含む灰黄褐色土、暗褐色土、明赤褐色土で構築している。袖部の内面には被熱痕跡は見られない。カマド周囲の床面上からは、カマド構築材の一部と思われる灰黄褐色粘土が散乱している。煙道部は、北東側へ直線的に延び、ほぼ垂直に立ち上がる。先端部は丸く広がり、第１号住居跡を切っている。天井部が残存しており、壁とともにローム粒子や焼土ブロック、礫を含む灰黄褐色粘土で構築されている。煙道部内面は、被熱を受け赤色化している（第９図第10層）。煙道部の幅は、12 ～ 15cmを測る。

遺物は、カマド内やピット内及び床面付近、住居覆土中から多量に出土している。出土した遺物のうち、６点を図示する（第10図）。１の土師器甕はカマド内及びカマド構築土内から出土している。２・３の土師器坏は住居中央部の覆土上層から出土し、３は倒立した状態であった。４の土師器坏は住居西壁付近の床面直上から倒立の状態で、５の土師器坏はＰ１内から破砕した状態、６の鉄鏃は覆土中からそれぞれ出土している。

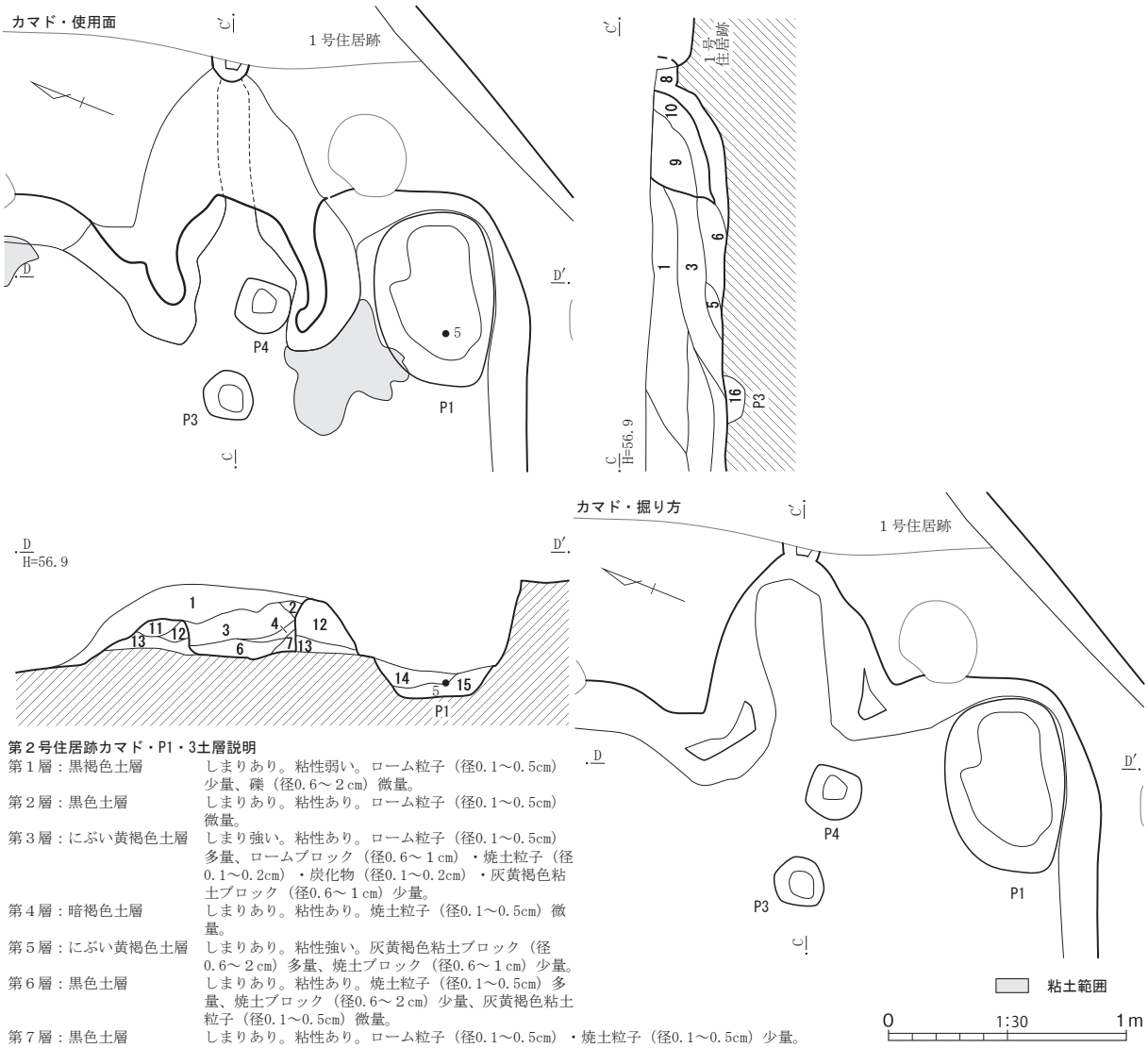
本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）と考えられる。



第２号住居跡土層説明

第１層：褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰白色粒子（径0.6～２cm）微量。
第２層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、礫（径0.6～２cm）微量。
第３層：明黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）多量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量、礫（径0.6～２cm）微量。
第４層：褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第５層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、礫（径0.6～２cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第６層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第７層：暗褐色土層	しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.5cm）少量、礫（径0.6～２cm）微量。
第８層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、礫（径0.6～２cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第９層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第10層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第11層：明黄褐色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。

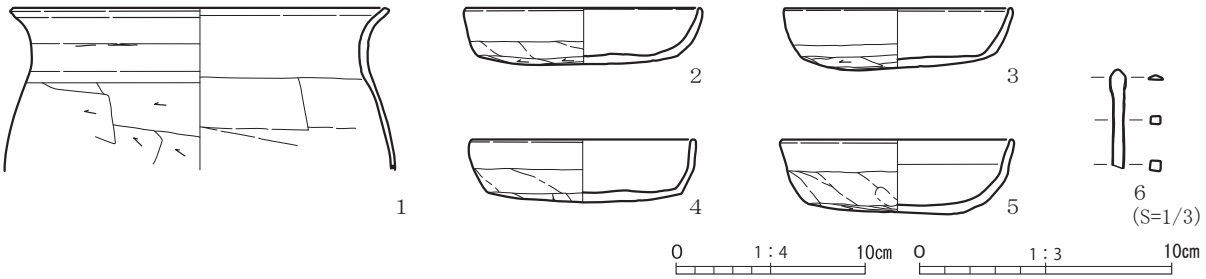
第８図　第２号住居跡



第２号住居跡カマド・P1・3土層説明

第１層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、礫（径0.6～２cm）微量。
第２層：黒色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第３層：にぶい黄褐色土層	しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）少量。
第４層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第５層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）多量、焼土ブロック（径0.6～１cm）少量。
第６層：黒色土層	しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土ブロック（径0.6～２cm）少量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第７層：黒色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第８層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第９層：にぶい黄褐色土層	しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土ブロック（径0.6～１cm）少量、礫（径0.6～２cm）微量。
第10層：明赤褐色土層	しまり強い。粘性なし。焼土ブロック（径0.6～１cm）多量。
第11層：明赤褐色土層	しまり強い。粘性弱い。焼土ブロック（径0.6～２cm）多量。被熱部。
第12層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）主体。礫（径0.6～２cm）微量。
第13層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量。
第14層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土ブロック（径0.6～２cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）少量。P1覆土。
第15層：暗褐色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。P1覆土。
第16層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。P3覆土。

第９図　第２号住居跡カマド



第 10 図　第２号住居跡出土遺物

第２表　第２号住居跡出土遺物観察表

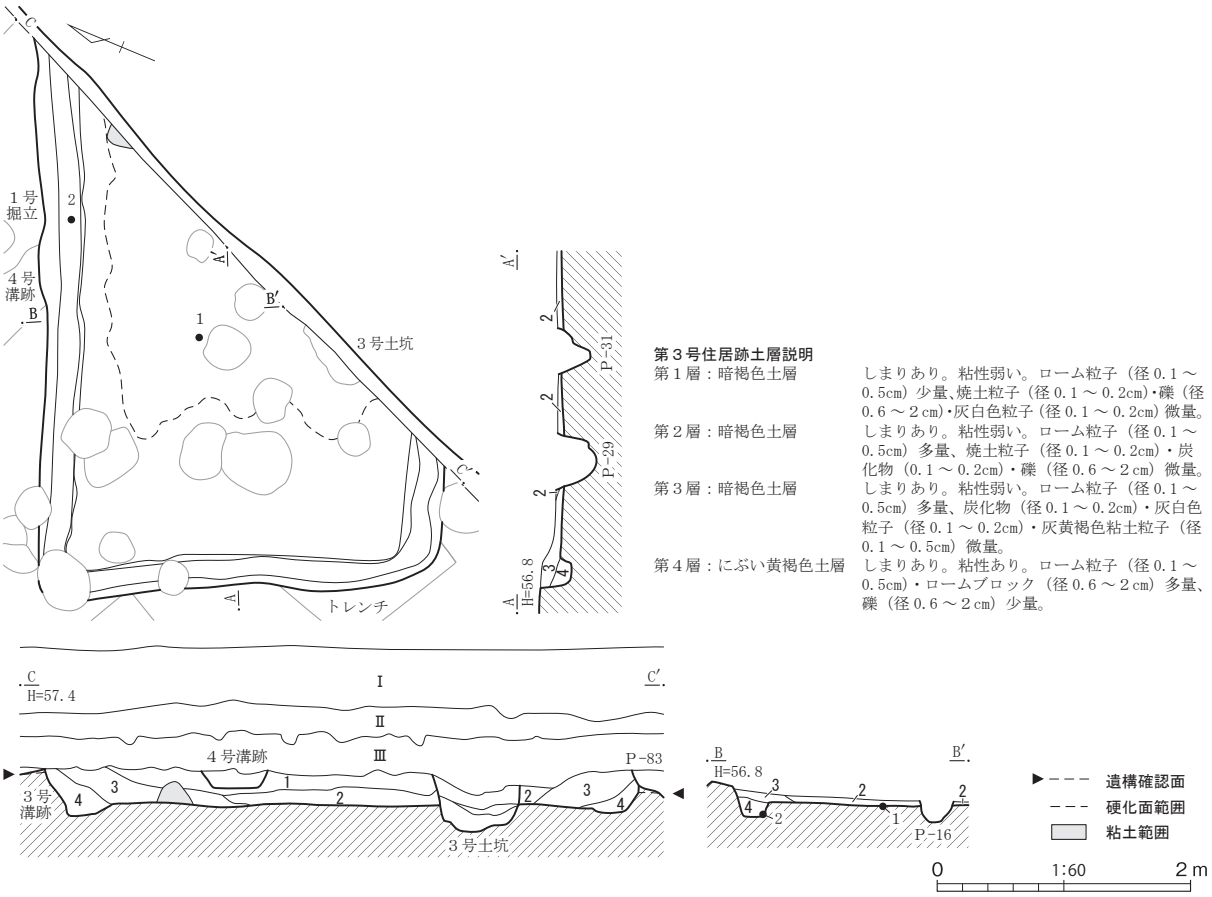
1	甕	A. 口径 (20.0)、器高 [8.6]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 内外－橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 口縁部～胴部上位 1/4。H. カマド。
2	坏	A. 口径 12.6、底径 10.6、器高 3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－にぶい橙色、内－橙色。E. 石英・白色粒・角閃石。F. 完形。G. 内面にタール状付着物。H. 覆土上層。
3	坏	A. 口径 12.1、底径 10.3、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－にぶい赤褐色、内－明赤褐色。E. 石英・白色粒・角閃石。F. 完形。G. 内面にタール状付着物。H. 覆土上層。
4	坏	A. 口径 12.0、底径 10.3、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－にぶい橙色、内－橙色。E. 石英・角閃石・白色粒・褐色粒。F. ほぼ完形。G. 内面にタール状付着物。H. 床面。
5	坏	A. 口径 12.4、底径 8.2、器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－にぶい黄橙色、内－にぶい橙色。E. 石英・角閃石・白色粒。F. ほぼ完形。H. 覆土中層。
6	鉄鏃	A. 長さ [3.9]、幅 0.4 ～ 0.6、厚さ 0.2 ～ 0.4、重さ 2.2。B. 鍛造。F. 鏃身～頸部。G. 鑿箭式鉄鏃。H. 覆土中。

第３号住居跡（第 11・12 図、第３表、図版２・６）

Ｂ区南西側東壁際に位置する。重複する第４号溝跡、第３号土坑、Ｐ -16・25 ～ 32・50・62・80・81・83 に切られている。

住居跡の東側は調査区外にあるため全容は不明であるが、残存する部分から推測すると、平面形はコーナーに丸みをもつ隅丸長方形を呈していると思われる。規模は、東西方向が 4.52 m以上、南北方向が 3.15 mを測る。住居跡の東西軸方位は、Ｎ -67°－Ｅを向いている。

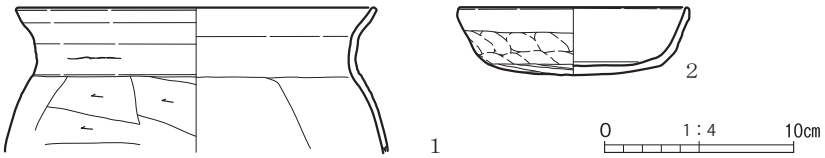
壁は、急な角度をもって立ち上がる。確認面から床面までの深さは、25cm である。壁溝は、切れ



第３号住居跡土層説明

第１層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径 0.1 ～ 0.5cm）少量、焼土粒子（径 0.1 ～ 0.2cm）・礫（径 0.6 ～ 2 cm）・灰白色粒子（径 0.1 ～ 0.2cm）微量。
第２層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径 0.1 ～ 0.5cm）多量、焼土粒子（径 0.1 ～ 0.2cm）・炭化物（0.1 ～ 0.2cm）・礫（径 0.6 ～ 2 cm）微量。
第３層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径 0.1 ～ 0.5cm）多量、炭化物（径 0.1 ～ 0.2cm）・灰白色粒子（径 0.1 ～ 0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径 0.1 ～ 0.5cm）微量。
第４層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径 0.1 ～ 0.5cm）・ロームブロック（径 0.6 ～ 2 cm）多量、礫（径 0.6 ～ 2 cm）少量。

第 11 図　第３号住居跡



第 12 図　第３号住居跡出土遺物

第３表　第３号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口径 (19.0)、器高 [7.7]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 内外ー橙色。E. 黒色粒・白色粒・石英・角閃石。F. 口縁部～胴部上位 1/4。G. 外面に粘土付着。H. 床面。
2	坏	A. 口径 (12.2)、底径 (9.2)、器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外ー橙色。E. 石英・黒色粒・角閃石・白色粒。F. 1/2。G. 内面に粘土付着。H. 壁溝内。

目なく周囲を巡っている。上端幅 18 ～ 27cm、下端幅 10 ～ 17cm、床面からの深さ５～ 10cm を測る。床面はローム面としており、中央部には踏み締めによる硬化が認められる。

カマドまたは炉跡、ピットは確認できなかった。

遺物は、床面付近や壁溝内、住居覆土中から少量出土している。出土した遺物のうち、２点を図示する（第 12 図）。１の土師器甕の口縁部から胴部片は床面直上で住居中央部、２の土師器坏は北壁壁溝内から出土している。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）と考えられる。

第４号住居跡（第 13 ～ 15 図、第４表、図版２・６）

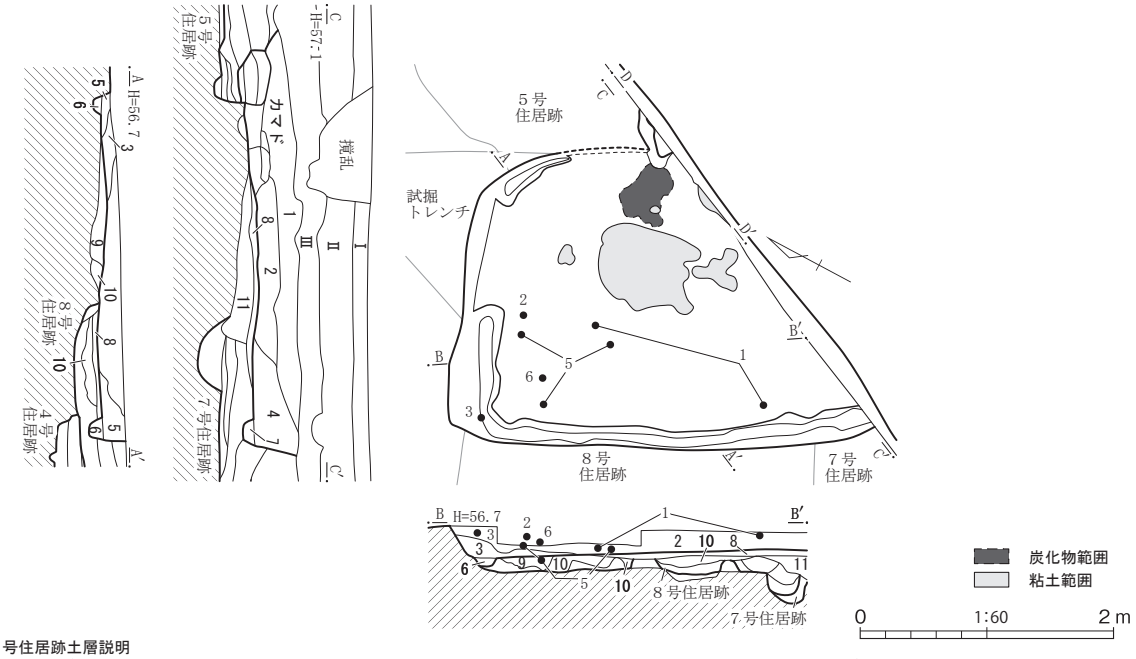
Ｂ区北東側東壁際に位置する。重複する第５・７・８号住居跡を切っている。

住居跡の東側は調査区外にあるため全容は不明であるが、残存する部分から推測すると、コーナーに丸みをもつ隅丸長方形を呈していると思われる。規模は、南北方向が 3.35 m以上、東西方向が 2.36 mを測る。住居跡の主軸方位は、Ｎ -63°－Ｅを向いている。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは、29cm である。壁溝は、北西壁と北東壁の一部を除いて確認されている。上端幅 15 ～ 20cm、下端幅５～ 15cm、床面からの深さ５～ 11cm を測る。床面は、ローム粒子やロームブロック、焼土粒子、焼土ブロックを含むにぶい黄褐色土・暗褐色土で埋め戻し、上面に灰黄褐色粘土・ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を含む灰黄褐色土で平坦面を構築した貼床で、全体に締まりが認められた。

カマドは住居北東壁際で、袖部の一部のみが検出された。規模は、残存長 50cm、最大幅 19cm を測る。焚口部、燃焼部、煙道部の形状は不明である。燃焼部底面は、住居床面とほぼ同じ高さで構築されているようである。袖部は、灰黄褐色粘土やローム粒子、ロームブロック、焼土粒、炭化物を含む灰黄褐色土、黒褐色土を直接貼り付けて構築している。袖部の内面に被熱痕跡は認められていない。カマド前方の床面には、カマド構築材の一部と考えられる灰黄褐色粘土や炭化物の集中がみられた。

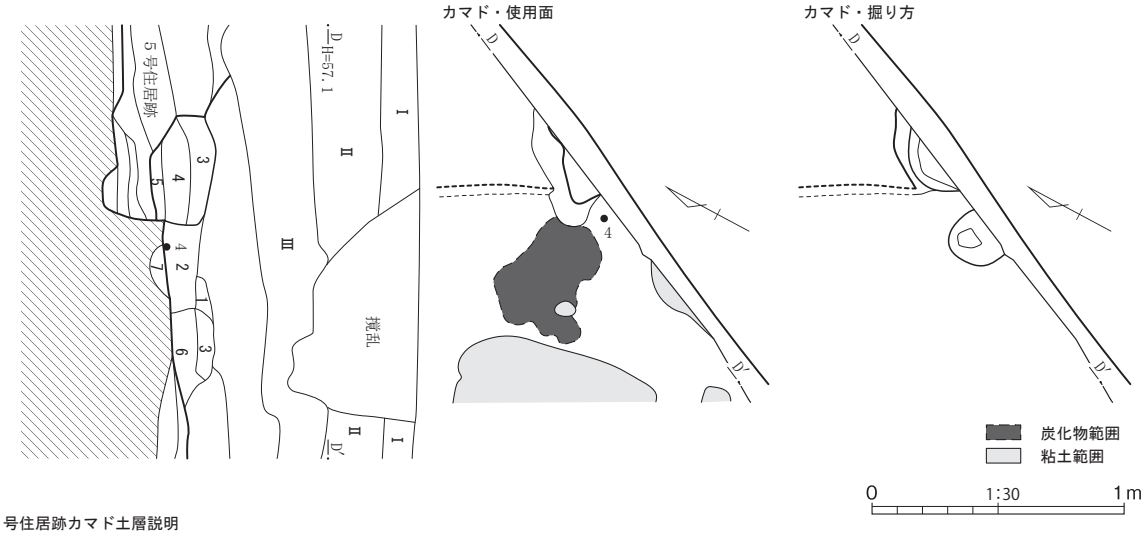
遺物は、カマド内や床面付近及び住居覆土中から多量に出土している。出土した遺物のうち、７点を図示する（第 15 図）。１の土師器鉢は、覆土上層から下層にかけて出土している。２の土師器鉢は覆土上層から出土している。３の土師器坏は北西隅覆土上層から倒立した状態で出土している。４の土師器坏は完形で、カマド前床面直上から正位の状態で出土している。５の土師器坏は覆土中層から床面付近にかけて出土している。６の土師器坏は底部に突起を持つもので、覆土中層から出土してい



第４号住居跡土層説明

第１層：暗褐色土層	しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）・礫（径0.2～２cm）・微細土器片微量。
第２層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～３cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第３層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第４層：暗褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第５層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第６層：にぶい黄褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）少量。
第７層：暗褐色土	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第８層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量。貼床。
第９層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。掘り方覆土。
第10層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～３cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。掘り方覆土。
第11層：褐色土層	しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～２cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。掘り方覆土。

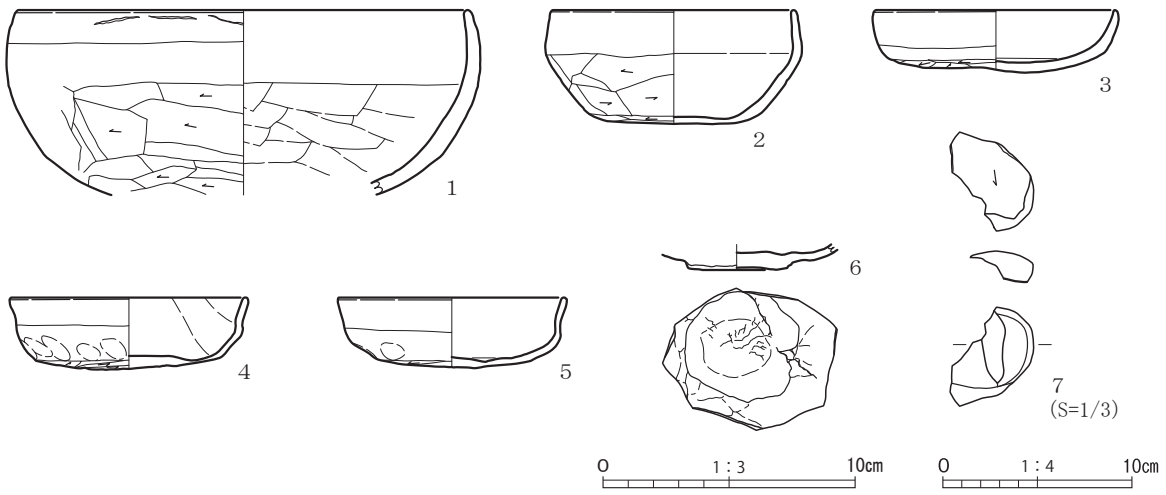
第 13 図　第４号住居跡



第４号住居跡カマド土層説明

第１層：黒色土層	しまり弱い。粘性弱い。炭化物（径0.1～0.2cm）大量。
第２層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土ブロック（径0.6～１cm）少量。
第３層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量。
第４層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土主体、焼土ブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第５層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第６層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～１cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第７層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～１cm）少量。

第 14 図　第４号住居跡カマド



第 15 図　第４号住居跡出土遺物

第４表　第４号住居跡出土遺物観察表

1	鉢	A. 口径 (24.0)、器高 [9.8]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、体部下位ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。D. 外ーにぶい黄橙色、内ー橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒。F. 1/6。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土上層～下層。
2	鉢	A. 口径 (13.0)、底径 (9.0)、器高 6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 石英・白色粒・角閃石。F. 1/4。H. 覆土上層。
3	坏	A. 口径 13.0、底径 11.1、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 石英・白色粒・黒色粒・角閃石。F. 3/4。G. 内外面にタール状付着物。H. 覆土上層。
4	坏	A. 口径 12.6、底径 9.7、器高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 石英・白色粒・黒色粒。F. ほぼ完形。H. カマド前。
5	坏	A. 口径 12.1、底径 8.0、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外ーにぶい橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒。F. ほぼ完形。G. 内面にタール状付着物。H. 覆土中層～床面。
6	坏底部	A. 底径 5.2、器高 [1.4]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面体部ユビオサエの後ナデ、底部ナデ。内面体部～底部ナデ。D. 内外ーにぶい橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒・角閃石。F. 底部片。G. 底部に突起をもつ。外面に粘土紐接合痕。H. 覆土中層。
7	坏底部 削りくず	A. 長さ 4.0、幅 3.3、厚さ 1.2。B. 粘土紐積み上げ。D. 内外ーにぶい赤褐色。E. 石英・白色粒・黒色粒。G. 底部に突起をもつ。H. 掘り方。

る。７は底部に突起を持つ土師器坏の削りくずで、掘り方から出土している。

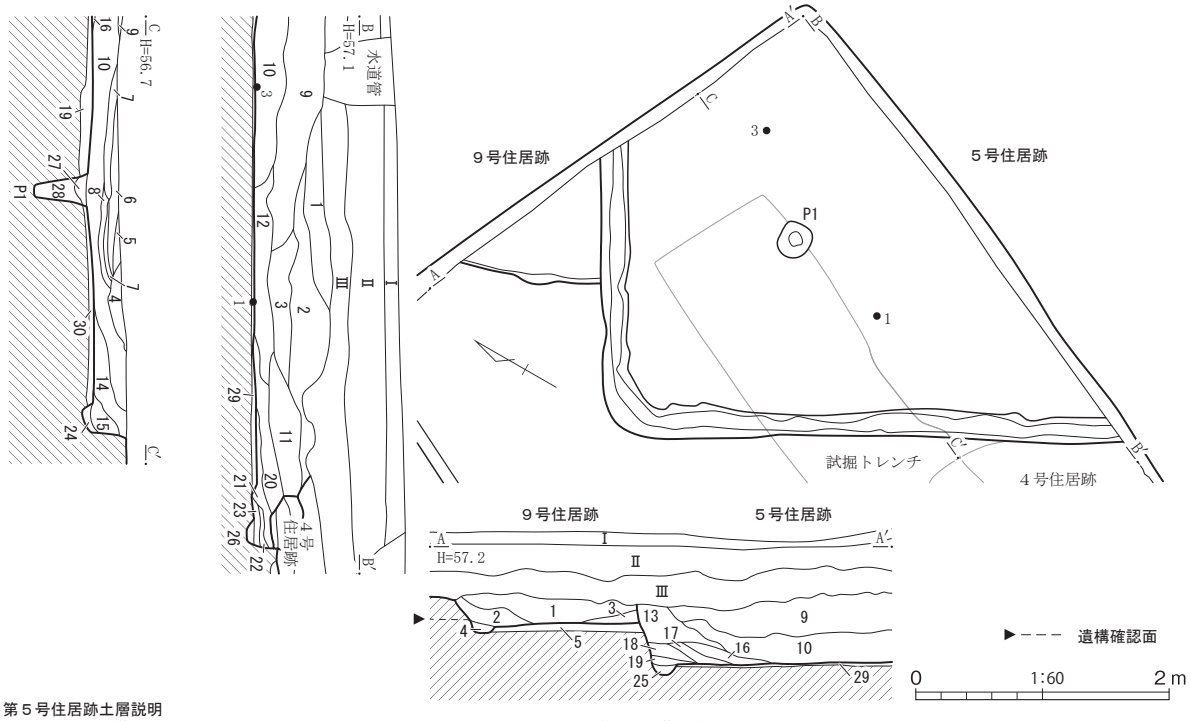
本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）と考えられる。

第５号住居跡（第 16・17 図、第５表、図版２・６）

Ｂ区北東端に位置する。重複する第４号住居跡に切られ、第９号住居跡を切っている。

住居跡の東側は調査区外にあるため全容は不明であるが、残存する部分から推測すると、コーナーに丸みをもつ隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈していると思われる。規模は、南北方向が 4.15 m以上、東西方向が 3.32 m以上を測る。住居跡の南北軸方位は、N −29° − Wを向いている。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは、35cm である。壁溝は、切れ目なく周囲を巡っている。上端幅 15 ～ 20cm、下端幅５～ 14cm、床面からの深さ６～ 10cm を測る。床面は、ローム粒子や焼土粒子、炭化物を含む灰黄褐色粘土で平坦面を構築した貼床で、全体に締まりが認められた。ピットは、住居中央でＰ１の１基が検出されている。Ｐ１は、検出された位置から住居の上屋を支える柱穴であった可能性が考えられる。形態は、28 × 25cm の楕円形を呈し、床面からの深さ



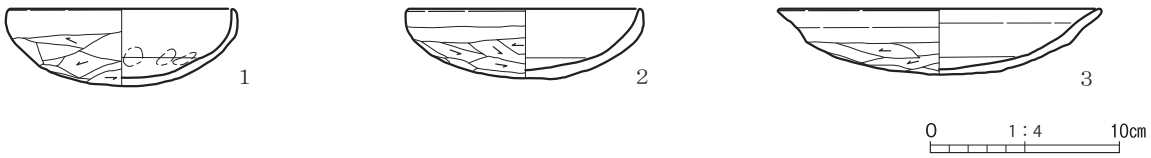
第５号住居跡土層説明

第１層：にぶい黄褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第２層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第３層：にぶい黄橙色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第４層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第５層：黄橙色土　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）多量。
第６層：黒褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第７層：黒色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）微量。
第８層：黒褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第９層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～１cm）多量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第10層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～２cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第11層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第12層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.3cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第13層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第14層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）微量。
第15層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第16層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第17層：黒褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第18層：褐色土層　しまり弱い。粘性あり。灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第19層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.3cm）少量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第20層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第21層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）微量。
第22層：黒褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第23層：褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第24層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）少量。壁溝覆土。
第25層：褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～１cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。壁溝覆土。
第26層：褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）多量。壁溝覆土。
第27層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。P1覆土。
第28層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ロームブロック（径0.6～２cm）多量。P1覆土。
第29層：灰黄褐色土層　しまり強い。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）多量。
第30層：黒色土層　しまり弱い。粘性あり。炭化物（径0.1～0.5cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。

第９号住居跡土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径０.１～０.5cm）多量、炭化物（径０.１～０.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径０.１～０.2cm）微量。
第２層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径０.１～０.5cm）多量、灰黄褐色粘土粒子（径０.１～０.2cm）少量、焼土粒子（径０.１～０.2cm）微量。
第３層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径０.１～０.5cm）・焼土粒子（径０.１～０.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径０.１～０.5cm）少量。
第４層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径０.１～０.5cm）少量、灰黄褐色粘土粒子（径０.１～０.3cm）微量。壁溝覆土。
第５層：にぶい黄褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径０.１～０.3cm）・ロームブロック（径０.６～１cm）多量。掘り方覆土。

第16図　第５・９号住居跡



第17図　第５号住居跡出土遺物

第５表　第５号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.0、器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外－橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. ほぼ完形。G. 内面に指頭痕。H. 床面。
2	坏	A. 口径 12.5、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外－橙色。E. 黒色粒・褐色粒・白色粒・石英。F. 3/4。H. 覆土中。
3	坏	A. 口径 17.1、器高 3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－橙色、内－黄橙色。E. 白色粒・石英・黒色粒・角閃石。F. ほぼ完形。H. 床面。

は 49cm を測る。

カマドまたは炉跡は、検出できなかった。

遺物は、床面付近及び住居覆土中から多量に出土している。出土した遺物のうち、３点を図示する(第 17 図)。１・３の土師器坏は床面直上で、１は住居内中央南西寄り、３は住居内中央北東寄りから、ともに倒立した状態で出土している。２の土師器坏は覆土中から出土している。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代から奈良時代（７世紀後半～８世紀前半）と考えられる。

第６号住居跡（第 18 ～ 20 図、第６表、図版２・６）

Ｂ区北東側西壁際に位置する。重複する第８号住居跡に切られ、第７・11・12 号住居跡を切っている。北東壁の一部が、後世の撹乱により削平を受ける。

住居跡の北東部は第８号住居跡により切られ、西側は調査区外にあるため全容は不明であるが、残存する部分から推測すると、平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈していると思われる。規模は、東西方向が推定 4.76 m、南北方向が 3.35 m以上を測る。住居跡の主軸方位は、Ｎ -50°－Ｅを向いている。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは、25cm である。壁溝は、検出されなかった。床面は、ローム粒子やロームブロック、灰黄褐色粘土ブロックを含んだ暗褐色土で埋め戻し、カマド前方と南東隅を除いた部分の上面に、灰黄褐色粘土ブロック・ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む灰黄褐色土で平坦面を構築した貼床で、踏み締めによる硬化がみられた。ピットは、住居中央南東寄りに、Ｐ１の１基が検出されている。Ｐ１は、検出された位置から住居の上屋を支える柱穴であった可能性が考えられる。形態は、68 × 56cm の楕円形を呈し、床面からの深さは 27cm を測る。

カマドは、住居北東壁に、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、残存長 125cm、残存幅 85cm を測る。焚口部の残存幅は、23cm を測る。燃焼部は住居壁より内側に設けている。燃焼部底面は、住居床面とほぼ同じ高さで平坦に構築されている。焚口部から燃焼部奥壁までは、43cm を測る。袖部は、灰黄褐色粘土を主体として、ローム粒子やロームブロック、焼土粒子、炭化物を含むにぶい黄橙色土、明赤褐色土、灰黄褐色土を直接貼り付けて構築している。袖部の内面の被熱痕跡は認められていない。煙道部は、北東側へ直線的に延び、先端はほぼ垂直に立ち上がる。煙道部の壁や天井部は、袖部と同様に灰黄褐色粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む灰黄褐色土や褐灰色土で構築されている。煙道部の幅は、12 ～ 13cm を測る。第 19 図第７層は崩落した燃焼部の天井であった可能性がある。

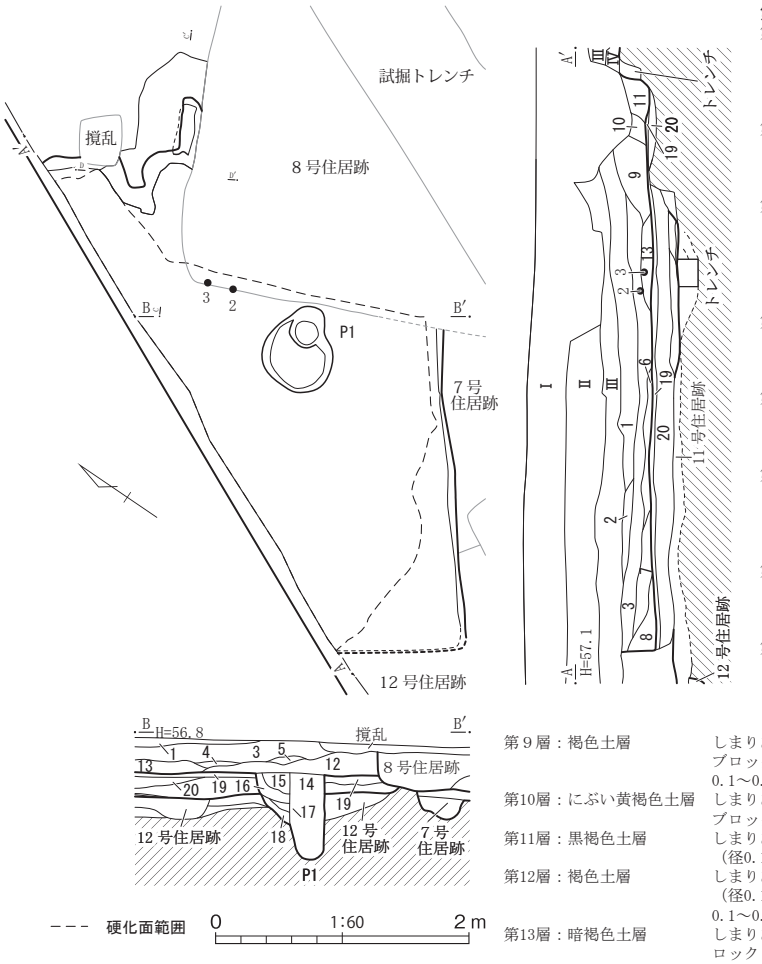
遺物は、カマド内や床面付近及び住居覆土中から大量に出土している。出土した遺物のうち、４点を図示する（第 20 図）。１の土師器甕はカマド構築材として、すべて破片で出土している。２・３の土師器坏は、覆土下層から出土している。４の土錘は覆土中からの出土である。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代（８世紀後半）と考えられる。

第７号住居跡（第 21 ～ 23 図、第７表、図版３・６）

Ｂ区中央北東寄り東壁際に位置する。重複する第４・６・８・11・12 号住居跡に切られている。住居中央南西部分が、後世の撹乱により削平を受ける。

住居跡の東側は調査区外にあるため全容は不明であるが、残存する部分と柱穴の配置から推測すると、平面形はコーナーに丸みをもつ隅丸長方形を呈していると思われる。規模は、南北方向が 6.50 m以上、東西方向が 7.50 m以上を測る。住居跡の東西軸方位は、Ｎ -63°－Ｅを向いている。



第６号住居跡土層説明

第１層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土ブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量。

第２層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量。

第３層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～２cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第４層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第５層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第６層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第７層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量、炭化物（径0.1～0.5cm）微量。

第８層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第９層：褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量。

第10層：にぶい黄褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）少量。

第11層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.5cm）微量。

第12層：褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量。

第13層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。

第14層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）少量、炭化物（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第15層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量。

第16層：明黄褐色土層　しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～１cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量。

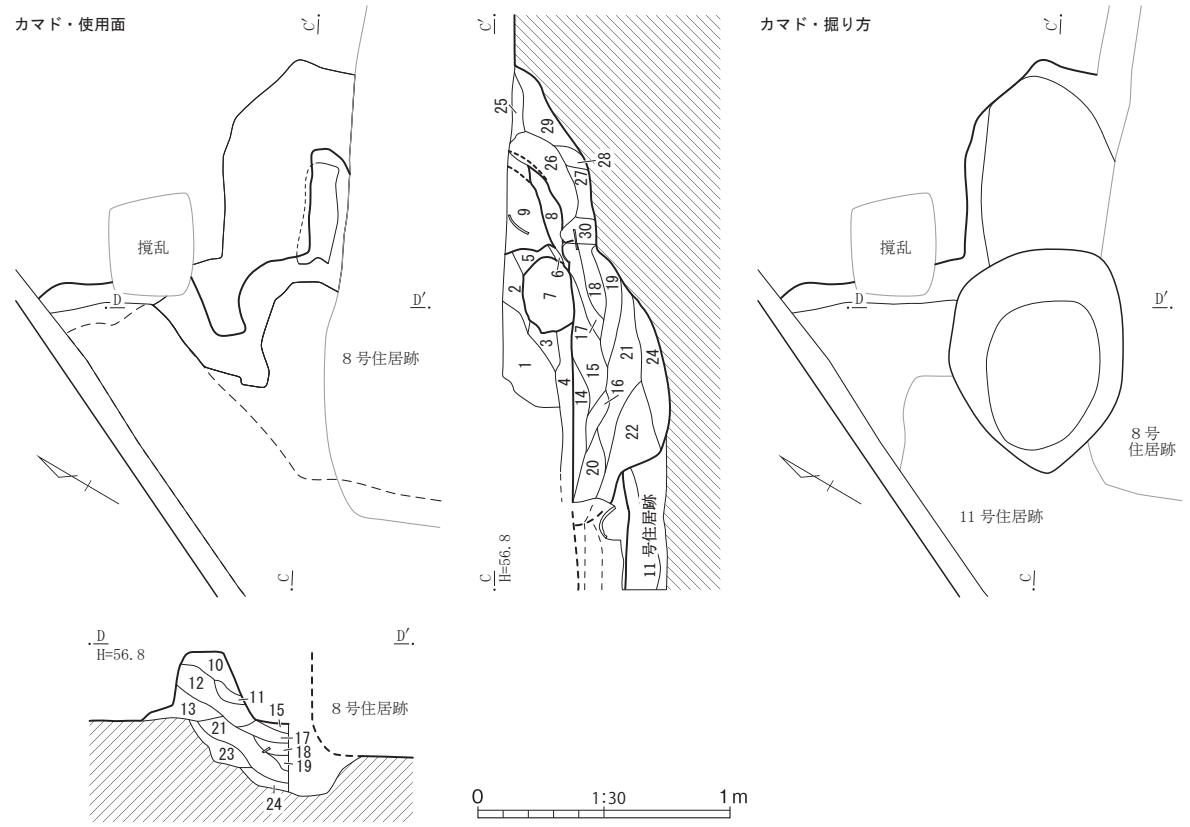
第17層：暗褐色土層　しまり強い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。

第18層：灰黄褐色土層　しまり強い。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）少量。

第19層：灰黄褐色土層　しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量。貼床。

第20層：暗褐色土層　しまり強い。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径５cm）多量。

第 18 図　第６号住居跡

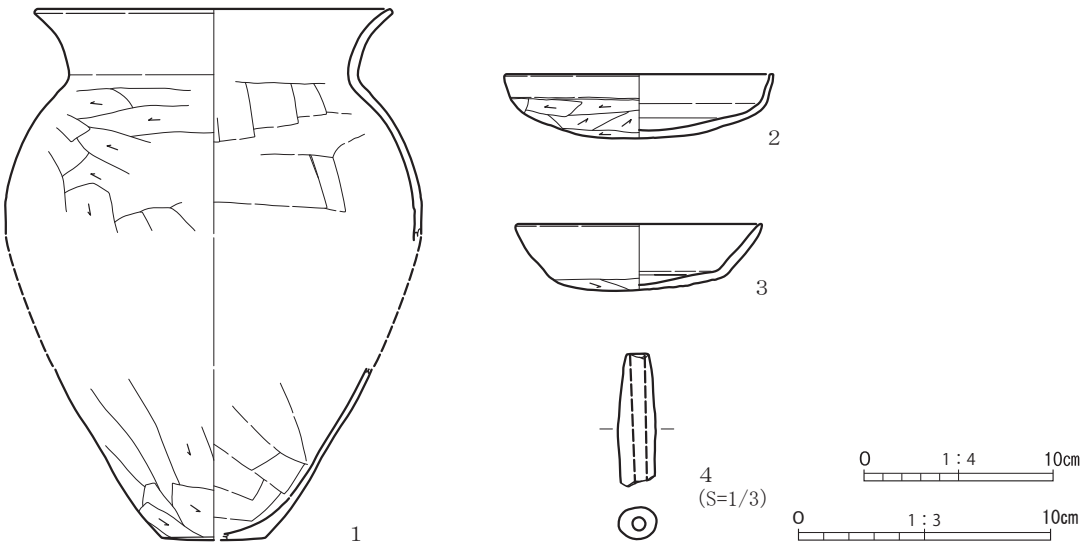


第６号住居跡カマド土層説明

第１層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第２層：褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）多量。
第３層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第４層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～３cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第５層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第６層：暗褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第７層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。灰褐色粘土主体。下部に被熱による赤化。天井か？
第８層：明赤褐色土層	しまり強い。粘性なし。焼土ブロック（径0.6～２cm）主体。被熱部。
第９層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）主体、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第10層：にぶい黄橙色土層	しまり強い。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第11層：明赤褐色土層	しまり強い。粘性なし。ロームブロック（径0.6～２cm）主体。被熱部。
第12層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）主体。
第13層：にぶい黄橙色土層	しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第14層：にぶい黄橙色土層	しまり強い。粘性強い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第15層：にぶい黄橙色土層	しまり強い。粘性強い。焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第16層：褐灰色土層	しまりあり。粘性弱い。炭化物（径0.1～0.5cm）多量。
第17層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量。
第18層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量。
第19層：褐灰色土層	しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第20層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性強い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第21層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）微量。
第22層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.5cm）少量。
第23層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第24層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性強い。ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第25層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土主体。焼土ブロック（径0.6～２cm）少量。
第26層：褐灰色土層	しまり強い。粘性強い。焼土ブロック（径0.6～２cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰少量。
第27層：にぶい黄橙色土層	しまりあり。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～１cm）少量。
第28層：褐灰色土層	しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.5cm）・ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第29層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第30層：明黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～１cm）少量。

第 19 図　第６号住居跡カマド

壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは、42cm である。壁溝は、切れ目なく周囲を巡っている。上端幅 24 ～ 45cm、下端幅 22 ～ 31cm、床面からの深さ２～ 12cm を測る。溝底には掘削工具痕がみられた。床面は、灰黄褐色粘土ブロックを主体として、ローム粒子、焼土粒子を含む灰黄褐色土で平坦面を構築した貼床で、締まりが認められた。壁際では貼床は検出されず、ローム面が露出していた。ピットは、Ｐ１～３の３基が検出されている。Ｐ１～３は、検出された位置から、住居の上屋を支える柱穴であったと考えられる。形態は、Ｐ１が 71 × 54cm の楕円形を呈し、床面



第 20 図　第６号住居跡出土遺物

第６表　第６号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口径 (19.0)、底径 (5.5)、器高 [12.2 ＋ 9.0]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 黒色粒・白色粒・石英・角閃石。F. 口縁部～胴部 1/8・胴部～底部 1/3。G. 外面に粘土付着。H. カマド。
2	坏	A. 口径 14.2、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 4/5。G. 内外面にタール状付着物。H. 覆土下層。
3	坏	A. 口径 13.0、底径 9.0、器高 3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ､底部ヘラナデ。D. 内外ーにぶい黄橙色。E. 石英･白色粒･角閃石。F. ほぼ完形。G. 内外面にタール状付着物。H. 覆土下層。
4	土錘	A. 長さ [5.3]、幅 1.5、厚さ 1.2、孔径 0.5、重さ 9.9。C. ナデ。D. にぶい橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 端部欠損。H. 覆土中。

からの深さは 78cm を測る。Ｐ２は 69 × 65cm の円形を呈し、床面からの深さは 67cm を測る。Ｐ３は 62 × 45cm の楕円形を呈し、床面からの深さは 36cm を測る。

カマドまたは炉跡は、検出できなかった。

遺物は、床面付近及びピット内、住居覆土中から大量に出土している。出土した遺物のうち、６点を図示する（第 23 図）。１の土師器甕は、北西壁溝際の床面直上から出土している。２の土師器坏は住居内中央に床面直上、３の土師器坏はＰ１覆土中層、４の土師器坏は覆土中層から出土している。５は小形壺で、北東隅の壁溝際の床面直上から出土している。

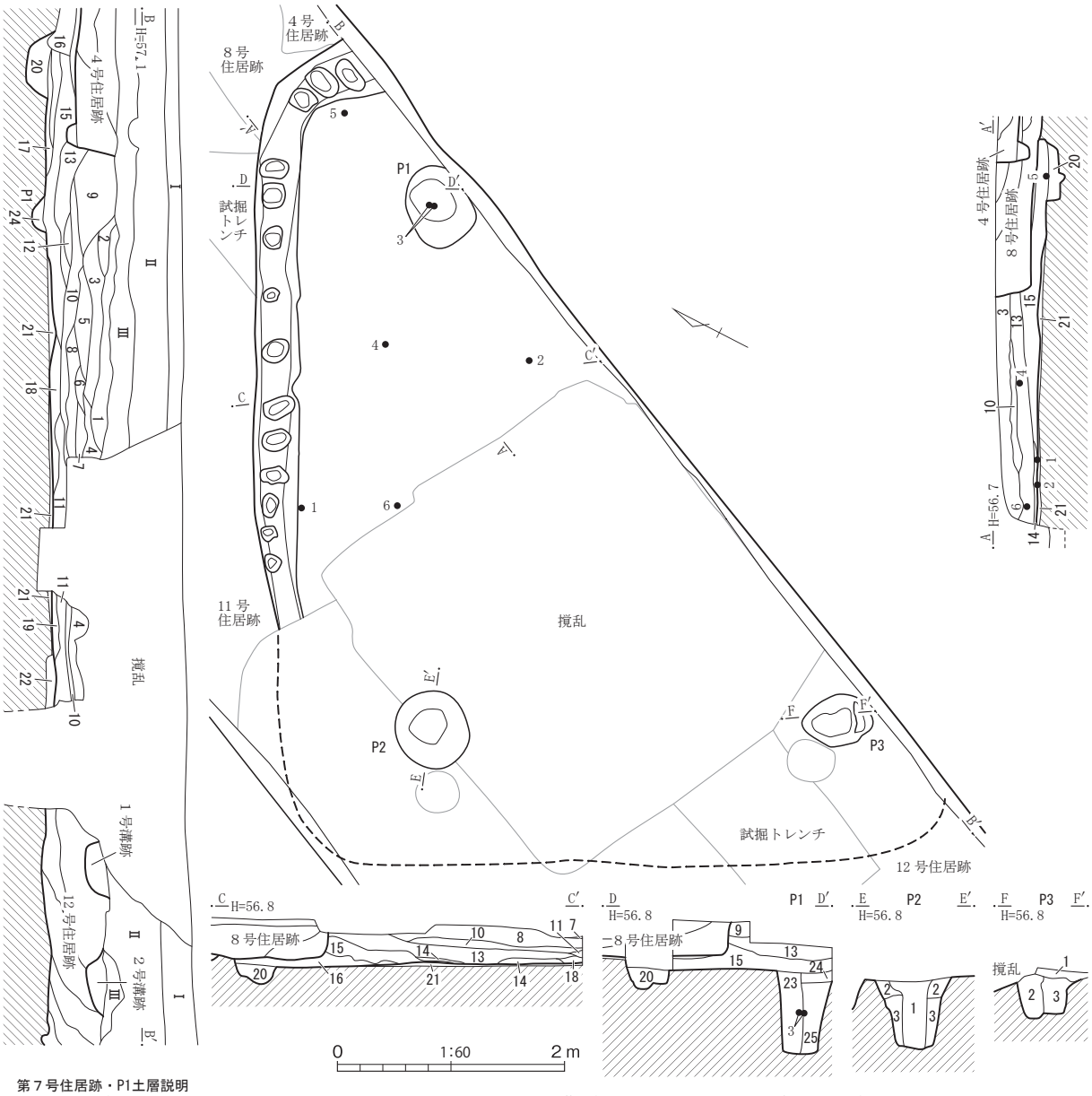
本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代から奈良時代（７世紀後半～８世紀前半）と考えられる。

第８号住居跡（第 24 ～ 26 図、第８表、図版３・７）

Ｂ区北東側東壁寄りに位置する。重複する第４号住居跡に切られ、第６・７・11・12 号住居跡を切っている。

住居跡の平面形は、コーナーに丸みをもつ隅丸方形を呈している。規模は、南北方向が 2.85 ｍ、東西方向が 3.05 ｍを測る。住居跡の主軸方位は、Ｎ -66° － Ｅを向いている。

壁は､ほぼ垂直に立ち上がる｡確認面から床面までの深さは､32cm である｡壁溝は検出されなかった。床面は、焼土粒子や炭化物を含む灰黄褐色粘土で平坦面を構築した貼床で、締まりが認められたが、



第７号住居跡・P1土層説明

第１層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）多量、焼土ブロック（径0.6～１cm）微量。
第２層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土ブロック（径0.6～２cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第３層：褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第４層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第５層：黒色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）多量。
第６層：褐灰色土層	しまりあり。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第７層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第８層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第９層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第10層：黒色土層	しまり弱い。粘性あり。焼土ブロック（径0.6～１cm）少量。炭化物と灰の互層。
第11層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第12層：暗褐色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。暗褐色土と炭の互層。
第13層：褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第14層：黒色土層	しまり弱い。粘性あり。炭化物（径0.1～0.5cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）・灰少量。
第15層：褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第16層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）多量。
第17層：褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第18層：黒色土層	しまり弱い。粘性あり。炭化物（径0.1～0.2cm）多量、灰少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第19層：黒色土層	しまり弱い。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第20層：にぶい黄褐色土層	しまり弱い。粘性なし。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。壁溝覆土。
第21層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性弱い。灰黄褐色粘土主体、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。貼床。
第22層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量。掘り方覆土。
第23層：にぶい黄褐色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。P1。柱痕。
第24層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量。P1。根固め土。
第25層：黄橙色土層	しまり強い。粘性あり。ロームブロック（径0.6～２cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。P1。根固め土。

第21図　第７号住居跡（１）

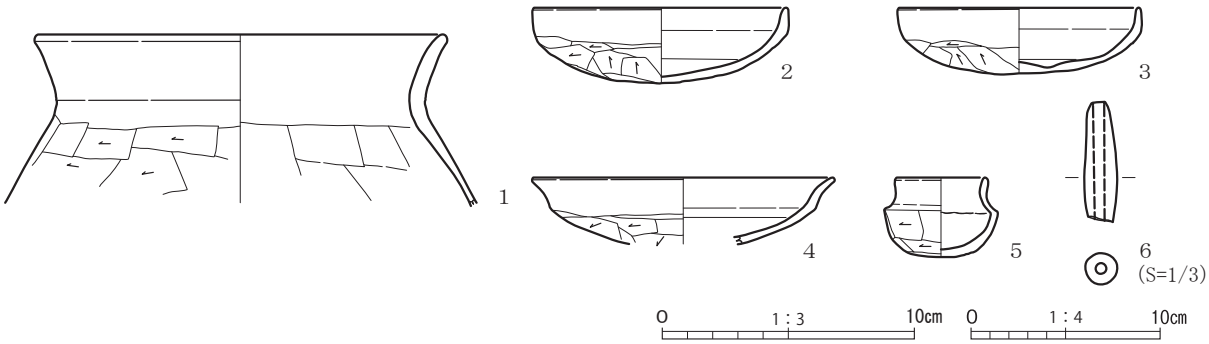
第７号住居跡P2土層説明

第１層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。柱痕。
第２層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）多量。根固め土。
第３層：にぶい黄褐色土層	しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・礫（径0.6～３cm）多量。根固め土。

第７号住居跡P3土層説明

第１層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土ブロック（径0.6～１cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）多量。第12号住居跡貼床。
第２層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。柱痕。
第３層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。根固め土。

第 22 図　第７号住居跡（２）



第 23 図　第７号住居跡出土遺物

第７表　第７号住居跡出土遺物観察表

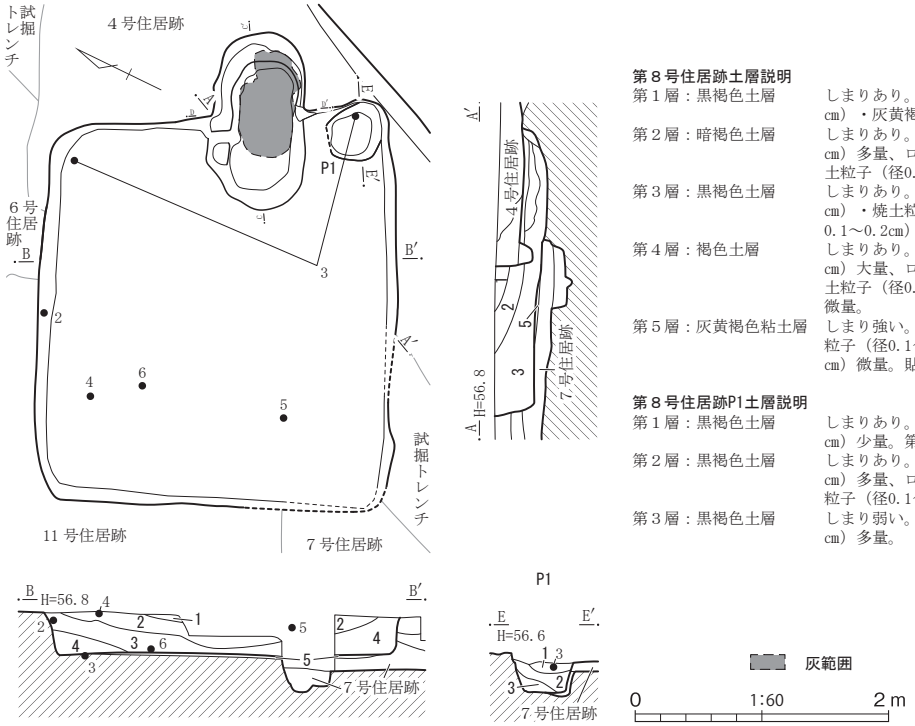
1	甕	A. 口径 (21.8)、器高 [9.1]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 外ー橙色、内ーにぶい橙色。E. 白色粒・黒色粒・石英・角閃石。F. 1/4。G. 外面に粘土付着。H. 床面。
2	坏	A. 口径 13.5、器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ーにぶい赤褐色。E. チャート・石英・白色粒・黒色粒。F. 完形。H. 床面。
3	坏	A. 口径 12.8、器高 3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 白色粒・石英・黒色粒。F. 完形。H. P1 覆土中層。
4	坏	A. 口径 (16.0)、器高 [3.5]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外ー橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒・角閃石。F. 1/4。H. 覆土中層。
5	小形壺	A. 口縁部径 5.0、器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部～底部ナデ。D. 内外ー橙色。E. 黒色粒・赤色粒・白色粒・石英・角閃石。F. ほぼ完形。H. 床面。
6	土錘	A. 長さ [4.8]、幅 1.3、厚さ 1.2、重さ 7.8。C. ナデ。D. にぶい赤褐色。E. 黒色粒･石英･角閃石･白色粒。F. 端部欠損。H. 覆土中層。

壁際の周辺はやや軟弱である。ピットは、住居北東隅でＰ１の１基が検出されている。Ｐ１はいわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、50 × 47cm の隅丸方形を呈し、床面からの深さは、24cm を測る。

カマドは、住居北東壁やや南に寄った位置に、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。重複する第４号住居跡による削平を受け、下部のみの検出に留まった。残存長 138cm、残存幅 78cm を測る。燃焼部は住居壁より内側に設けている。燃焼部底面は土坑状に浅く窪んでおり、炭化物や灰が検出されている。燃焼部奥壁から煙道部に向かって、緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖部は、灰黄褐色粘土を直接貼り付けて構築している。

遺物は、床面付近及び住居覆土中から多量に出土している。出土した遺物のうち、７点を図示する（第 23 図）。１は土師器甕で、カマド内及び住居内覆土中から出土している。２は土師器甕で、北西壁際の覆土上層から出土している。３の土師器鉢は北隅の床面直上とＰ１覆土上層から出土している。４・５の土師器坏は覆土上層、６の土師器坏は覆土下層からそれぞれ出土している。７の鉄鏃は、覆土中からの出土である。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代から平安時代（８世紀後半～９世紀前半）と考えられる。



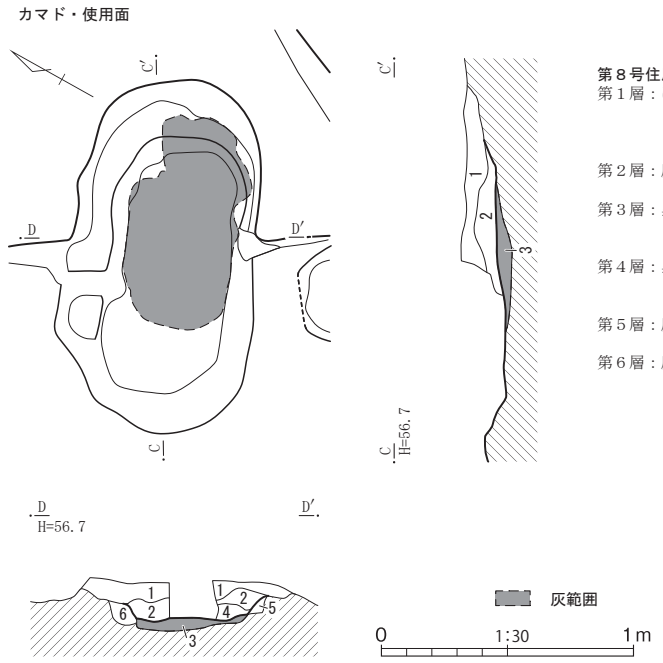
第８号住居跡土層説明

第１層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5㎝）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2㎝）少量。
第２層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5㎝）多量、ロームブロック（径0.6～１㎝）・焼土粒子（径0.1～0.2㎝）少量。
第３層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5㎝）・焼土粒子（径0.1～0.2㎝）・炭化物（径0.1～0.2㎝）少量。
第４層：褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5㎝）大量、ロームブロック（径0.6～１㎝）・焼土粒子（径0.1～0.2㎝）・炭化物（径0.1～0.2㎝）微量。
第５層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土主体、焼土粒子（径0.1～0.2㎝）少量、炭化物（径0.1～0.2㎝）微量。貼床。

第８号住居跡P1土層説明

第１層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5㎝）少量。第４号住居跡掘り方覆土。
第２層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5㎝）多量、ロームブロック（径0.6～１㎝）・焼土粒子（径0.1～0.2㎝）少量。
第３層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5㎝）多量。

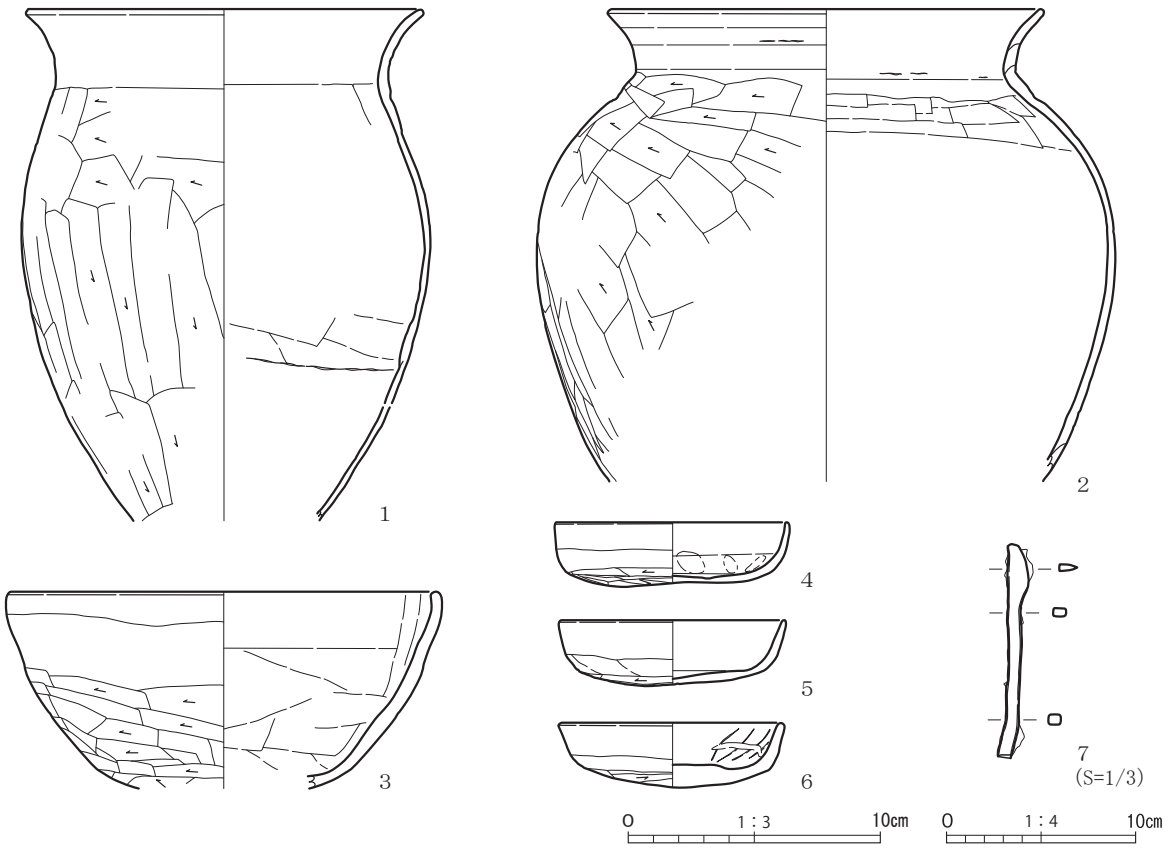
第 24 図　第８号住居跡



第８号住居跡カマド土層説明

第１層：にぶい黄褐色土層	しまり強い。粘性あり。ロームブロック（径0.6～２㎝）多量、ローム粒子（径0.1～0.5㎝）・焼土粒子（径0.1～0.2㎝）・炭化物（径0.1～0.2㎝）少量。第４号住居跡掘り方覆土。
第２層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック主体。
第３層：黒色土層	しまり弱い。粘性あり。炭化物（径0.1～0.5㎝）大量、焼土粒子（径0.1～0.5㎝）多量、灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１㎝）・灰少量。
第４層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2㎝）・炭化物（径0.1～0.5㎝）少量、焼土粒子（径0.1～0.5㎝）微量。
第５層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック主体。
第６層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～３㎝）多量、ローム粒子（径0.1～0.5㎝）少量、ロームブロック（径0.6～１㎝）微量。

第 25 図　第８号住居跡カマド



第 26 図　第８号住居跡出土遺物

第８表　第８号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口径 (21.0)、器高 [27.1]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 黒色粒・白色粒・石英。F. 口縁部～胴部 3/4。G. 外面に粘土付着。H. カマド・覆土中。
2	甕	A. 口径 (23.0)、器高 [25.0]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 内外ー橙色。E. 黒色粒・褐色粒・石英・白色粒。F. 口縁部～胴部 1/4。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土上層。
3	鉢	A. 口径 (22.5)、底径 (13.4)、器高 [10.4]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。D. 外ー橙色、内ーにぶい橙色。E. 黒色粒・石英・白色粒。F. 1/4。G. 内外面にタール状付着物。H. 床面・P1 覆土上層。
4	坏	A. 口径 12.4、底径 10.8、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 黒色粒・石英・角閃石・白色粒。F. ほぼ完形。G. 内面に指頭痕。底部に棒状具による窪み。H. 覆土上層。
5	坏	A. 口径 12.0、底径 9.8、器高 3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい赤褐色、内ーにぶい橙色。E. 白色粒・石英・黒色粒。F. 完形。H. 覆土上層。
6	坏	A. 口径 11.9、底径 9.7、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ後部分的にミガキ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒。F. 完形。H. 覆土下層。
7	鉄鏃	A. 長さ [8.5]、幅 0.5 ～ 0.8、厚さ 0.3 ～ 0.4、重さ 6.3。B. 鍛造。F. 鏃身～頸部か。G. 片刃箭式鉄鏃か。H. 覆土中。

第９号住居跡（第 16・27 図、第９表、図版３・７）

Ｂ区北東端に位置する。重複する第５号住居跡に切られている。

住居跡の北側は調査区外にあるため、全容は不明である。規模は、南北方向が 1.10 m以上、東西方向が 1.02 m以上を測る。住居跡の南北軸方位は、Ｎ -23° －Ｗを向いている。

壁は、急な角度をもって立ち上がる。確認面から床面までの深さは、10cm である。壁溝は、調査

区壁面で確認できた。上端幅は18cm、下端幅は12cm、床面からの深さは６cmを測る。床面は、ローム粒子やロームブロックを含むにぶい黄褐色土で平坦に埋め戻した貼床である。

カマドまたは炉跡、ピットは検出できなかった。

遺物は、住居覆土中から僅かに出土している。出土した遺物のうち、１点を図示する（第27図）。１の土師器坏は覆土中からの出土である。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代から奈良時代（７世紀後半～８世紀前半）と考えられる。

第27図　第９号住居跡出土遺物

第９表　第９号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(11.5)、器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部へラナデ。D. 内外－明黄褐色。E. 黒色粒・石英・白色粒・角閃石。F. 1/4。H. 覆土中。

第10号住居跡（第28～30図、第10表、図版３・７）

Ｂ区南西側中央西壁寄りに位置する。重複する第１号掘立柱建物跡、第４・６号土坑、第３号溝跡、Ｐ-33～40・43・44・51・53・56・65～67に切られ、第５号土坑を切っている。住居北隅と西側の一部が、後世の撹乱により削平を受ける。

住居跡の平面形は、コーナーに丸みをもつ隅丸長方形を呈している。規模は、南北方向が4.25ｍ、東西方向が3.74ｍを測る。住居跡の主軸方位は、Ｎ-60°-Ｗを向いている。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの深さは、16cmである。壁溝は、検出できなかった。ローム面を床面としており、部分的に締まりが認められた。ピットは検出できなかったが、南東隅で土坑状の浅い窪みが確認できた。規模は、54×50cmの楕円形で、床面からの深さは３cmを測る。

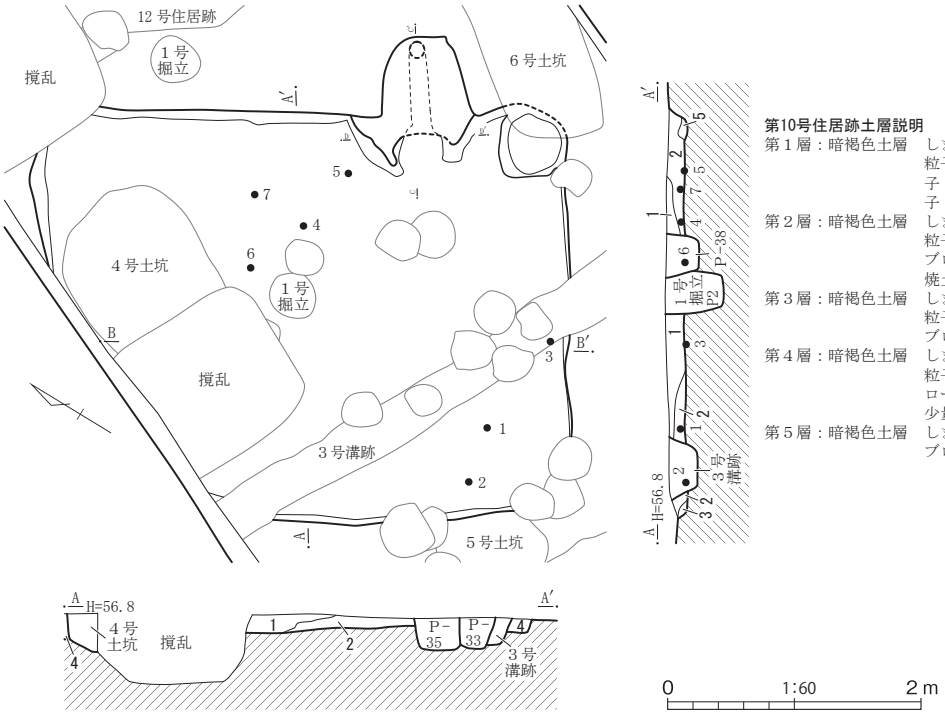
カマドは、住居北東壁やや南に寄った位置に、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、残存長110cm、最大幅109cmを測る。焚口部の幅は、34cmを測る。燃焼部は住居壁より内側に設けている。燃焼部底面は、住居床面より僅かに低く、奥壁から煙道部に向かって、緩やかに傾斜して立ち上がっている。焚口部から燃焼部奥壁までは、40cmを測る。袖部は、灰黄褐色粘土を主体として、ローム粒子や焼土ブロック、炭化物を含む灰黄褐色土を直接貼り付けて構築している。袖部の内面に被熱痕跡は認められない。煙道部は、北東側へ直線的に延び、先端部は丸く広がり、ほぼ垂直に立ち上がる。煙道部の壁は、焼土ブロックを主体として、焼土粒子や礫を含む灰褐色土で構築される。燃焼部と煙道部の接続部分の天井部内面には被熱痕跡が認められる。煙道部の幅は、12～15cmを測る。

遺物は、カマド内や床面付近及び住居覆土中から少量出土している。出土した遺物のうち、７点を図示する（第30図）。１～７の土師器坏は全て床面直上から出土している。２～４・７はほぼ完形で、２～４は倒立した状態で検出されている。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代（８世紀後半）と考えられる。

第11号住居跡（第31～33図、第11表、図版４・７）

Ｂ区中央西壁際に位置する。重複する第７・12号住居跡を切り、第６・８号住居跡に切られている。



第10号住居跡土層説明

第１層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量。

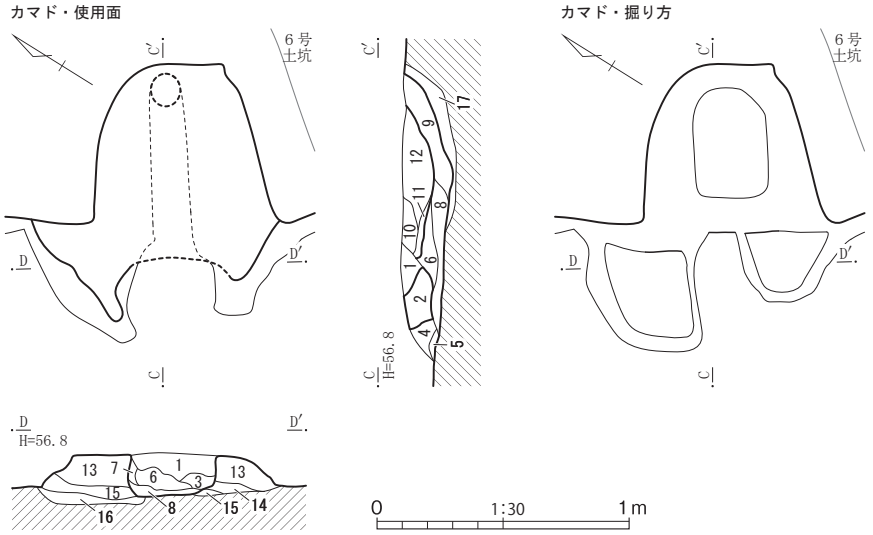
第２層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第３層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）多量。

第４層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）少量。

第５層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.6～２cm）多量。

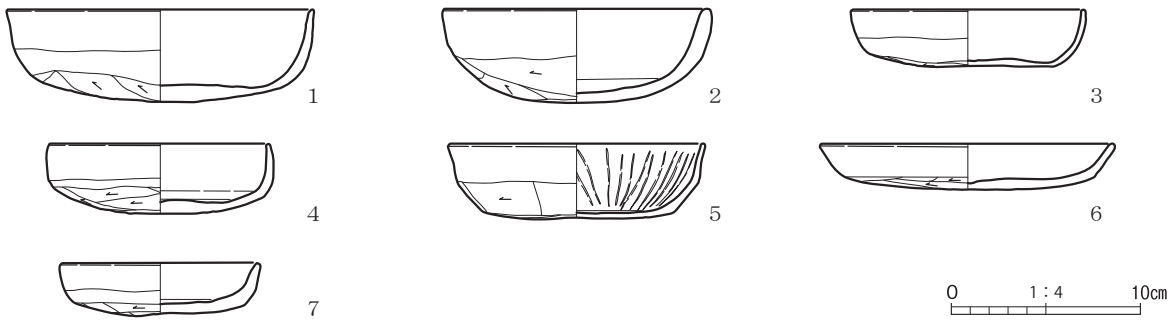
第 28 図　第 10 号住居跡



第10号住居跡カマド土層説明

第１層：灰褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第２層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第３層：暗褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）微量。
第４層：暗褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第５層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック主体。
第６層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第７層：灰褐色土層	しまり強い。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第８層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性あり。炭化物（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第９層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第10層：灰褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.5cm）少量、礫（径0.6～２cm）微量。
第11層：赤褐色土層	しまり強い。粘性なし。焼土ブロック主体。天井被熱面。
第12層：灰褐色土層	しまりあり。粘性あり。焼土ブロック（径0.6～１cm）多量。
第13層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第14層：灰黄褐色粘土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）多量、焼土ブロック（径0.6～２cm）少量。
第15層：黒色土層	しまり弱い。粘性あり。炭化物（径0.1～0.5cm）多量。
第16層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～１cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第17層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第 29 図　第 10 号住居跡カマド



第 30 図　第 10 号住居跡出土遺物

第 10 表　第 10 号住居跡出土遺物観察表

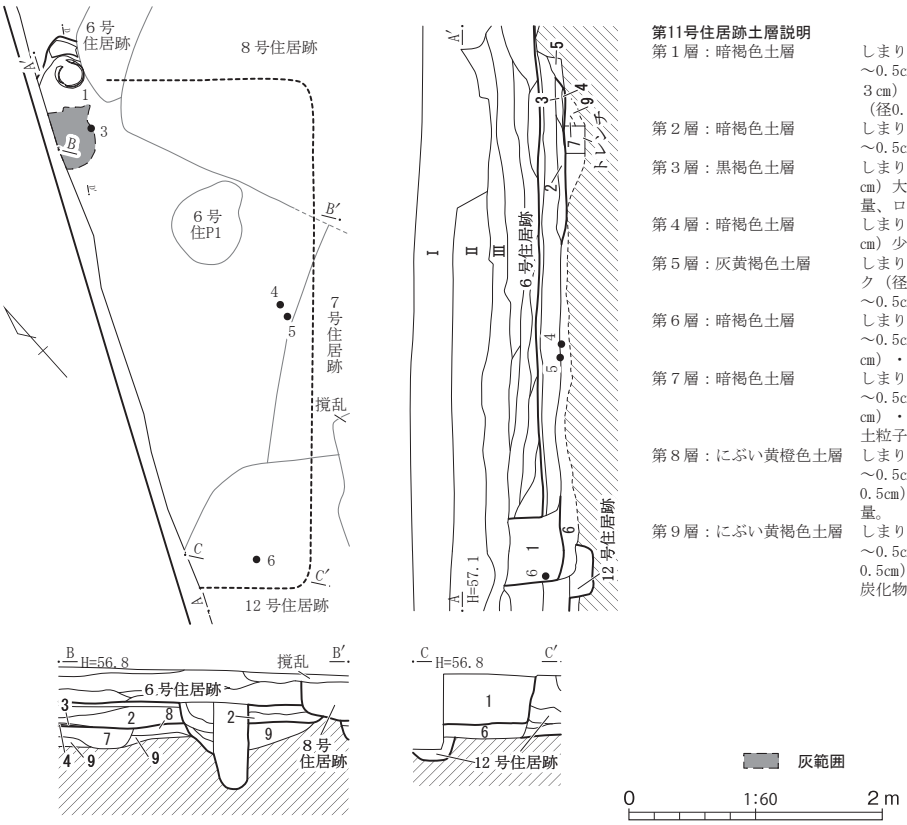
1	坏	A. 口径 16.2、器高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部へラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒。F. 2/3。G. 内外面にタール状付着物。H. 床面。
2	坏	A. 口径 14.2、器高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部へラナデ。D. 内外ーにぶい橙色。E. 石英・角閃石・白色粒。F. ほぼ完形。G. 内外面にタール状付着物。H. 床面・覆土中。
3	坏	A. 口径 12.4、底径 9.7、器高 3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部へラナデ。D. 内外ー橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒・角閃石。F. 完形。H. 床面。
4	坏	A. 口径 11.7、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部へラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒。F. ほぼ完形。G. 内外面にタール状付着物。H. 床面。
5	坏	A. 口径 13.5、底径 10.0、器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ後放射状ミガキ（暗文）、底部へラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 石英・角閃石・白色粒。F. 4/5。G. 内外面にタール状付着物。H. 床面。
6	坏	A. 口径 15.5、器高 2.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部へラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー橙色。E. 黒色粒・石英・角閃石・白色粒。F. 2/3。G. 内外面にタール状付着物。H. 床面。
7	坏	A. 口径 10.5、底径 9.0、器高 2.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部へラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部へラナデ。D. 内外ーにぶい橙色。E. 石英・黒色粒・白色粒。F. 完形。G. 内外面にタール状付着物。H. 床面。

住居跡の大半を重複する住居跡に削平されており、西側も調査区外にあるため全容は不明である。規模は、南北方向が 2.90 m以上、東西方向が 1.95 mと推測される。住居跡の主軸方位は、N -43°- Eを向いている。

調査区壁や土層観察ベルトの状況から、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは、43cm である。壁溝は、検出できなかった。床面は、ローム粒子やロームブロック、灰黄褐色粘土粒子、焼土粒子、炭化物を含む暗褐色土とにぶい黄橙色土で平坦に埋め戻した貼床である。ピットは、確認できなかった。

カマドは、住居北東壁の位置に付設されている。重複する第６号住居跡による削平を受け、袖部や天井部は残存しておらず、燃焼部と煙道部の一部のみ検出している。規模は、残存長 60cm、残存幅 33cm を測る。燃焼部底面は、住居床面とほぼ同じ高さで構築され、奥壁から煙道部に向かって、緩やかに傾斜して立ち上がっている。燃焼部奥壁側で、土師器甕上半部が倒立した状態で検出されている。煙道部は僅かに残存しており、北東側へ直線的に延びている。

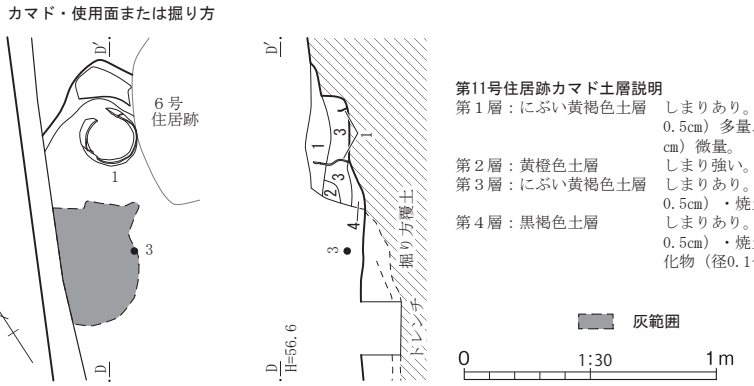
遺物は、カマド内やその周辺、床面付近及び住居覆土中から少量出土している。出土した遺物のうち、６点を図示する（第 33 図）。１の土師器甕は、カマド内から出土しており、第６号住居跡覆土中からも破片が検出されている。２の小形甕は覆土中から破片の状態で出土している。３の土師器坏はカマド前の覆土下層から、４・５の土師器坏は床面直上から隣接して出土している。６は土錘で、覆



第11号住居跡土層説明

第１層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～３cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。
第２層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第３層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。炭化物（径0.1～0.5cm）大量、焼土ブロック（径0.6～１cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）少量。
第４層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。炭化物（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第５層：灰黄褐色土層	しまり強い。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第６層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第７層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第８層：にぶい黄橙色土層	しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.5cm）少量。
第９層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

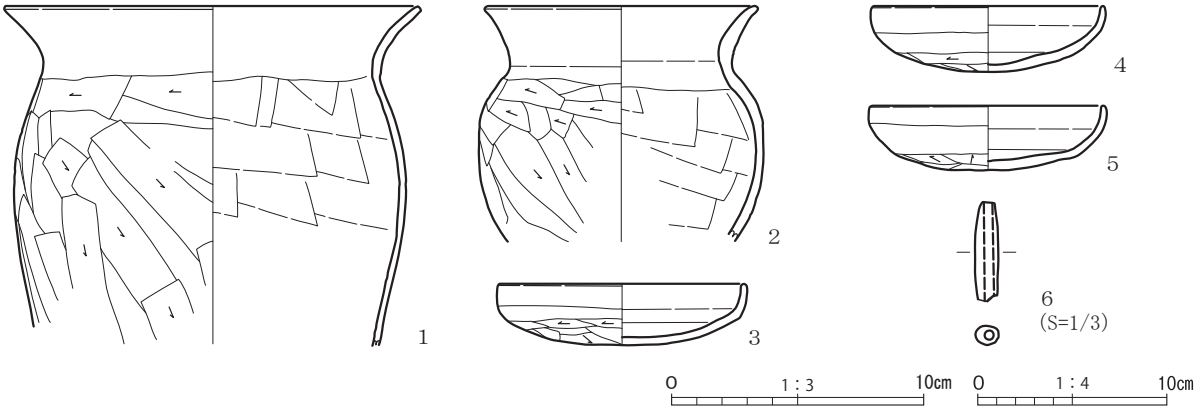
第 31 図　第 11 号住居跡



第11号住居跡カマド土層説明

第１層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第２層：黄橙色土層	しまり強い。粘性強い。ロームブロック。
第３層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量。
第４層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第 32 図　第 11 号住居跡カマド



第 33 図　第 11 号住居跡出土遺物

第 11 表　第 11 号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口径 22.0、器高 [18.0]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙色、内ー浅黄橙色。E. 黒色粒・石英・角閃石・白色粒。F. 口縁部～胴部上半 2/3。G. 外面に黒斑あり。H. カマド内・覆土中。
2	甕	A. 口径 (14.3)、器高 [12.5]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 内外ーにぶい黄橙色。E. 白色粒・黒色粒・石英。F. 1/2。H. 覆土中。
3	坏	A. 口径 13.2、器高 3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい褐色、内ー橙色。E. 黒色粒・白色粒・石英。F. ほぼ完形。G. 内面にタール状付着物。H. カマド前覆土下層。
4	坏	A. 口径 12.4、器高 3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外ー橙色。E. 白色粒・黒色粒・石英・角閃石・チャート。F. 完形。H. 床面。
5	坏	A. 口径 12.5、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外ー明黄褐色。E. 白色粒・石英・黒色粒。F. 完形。H. 床面。
6	土錘	A. 長さ [3.95]、幅 0.95、厚さ 0.8、孔径 0.35、重さ 3.2。C. ナデ。D. 橙色。E. 石英・白色粒。F. 端部欠損。H. 覆土下層。

土下層から出土している。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代から奈良時代（７世紀後半～８世紀前半）と考えられる。

第 12 号住居跡（第 34 ～ 37 図、第 12 表、図版４・８）

Ｂ区中央に位置する。重複する第７・13 号住居跡を切り、第６・11 号住居跡、第１・２号溝跡、Ｐ -42・45・58・59・63・64・70・71 に切られている。北東側と南西側の一部が、後世の撹乱により削平を受ける。

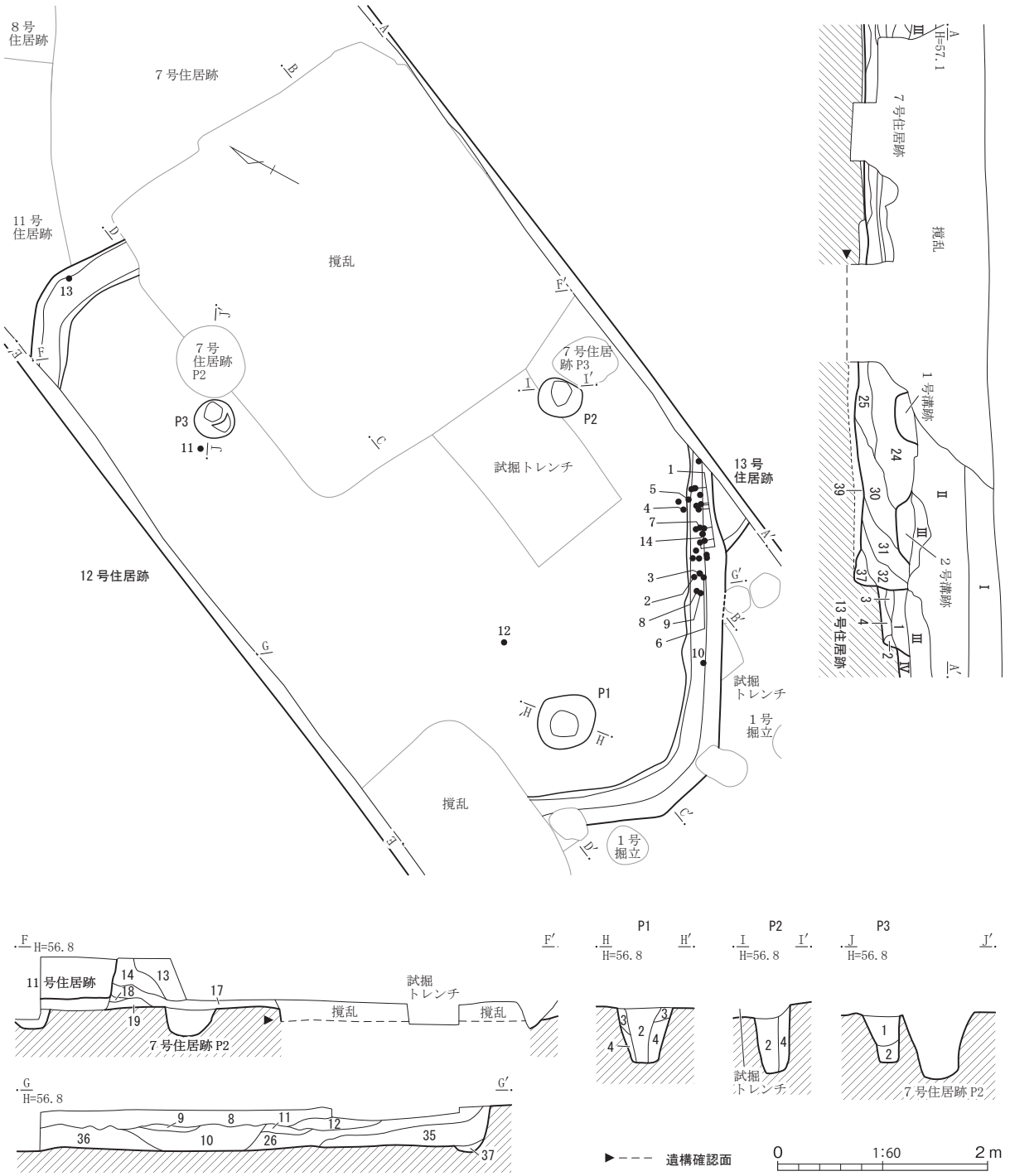
住居跡の東西両端は調査区外にあるが、平面形はコーナーに丸みをもつ隅丸長方形を呈していると思われる。規模は、南北方向が 6.50 m以上、東西方向が 5.60 m以上を測る。住居跡の南北軸方位は、Ｎ -31°－Ｗを向いている。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは、45cm である。壁溝は、切れ目なく周囲を巡っている。上端幅 15 ～ 35cm、下端幅 10 ～ 27cm、床面からの深さは６～ 13cm を測る。床面は、ローム粒子や炭化物を含む暗褐色土で埋め戻し、上面に灰黄褐色粘土ブロックや灰黄褐色粘土粒子、ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含むにぶい黄褐色土で平坦面を構築した貼床である。ピットは、Ｐ１～３の３基が検出されている。Ｐ１～３は、検出された位置と覆土の状況から、住居の上屋を支える柱穴であったと考えられる。形態は、Ｐ１が 55 × 50cm の隅丸長方形を呈し、床面からの深さは 56cm を測る。Ｐ２は 42 × 37cm の楕円形を呈し、床面からの深さは 66cm を測る。Ｐ３は 38 × 37cm の円形を呈し、床面からの深さは 50cm を測る。

カマドおよび炉跡は、検出できなかった。

遺物は、床面付近及び住居覆土中から大量に出土している。特に南東壁際では、完形の土器がまとまって検出された。出土した遺物のうち、14 点を図示する（第 37 図）。１の土師器甕から９の土師器坏は南東壁際から出土したもので、10 の須恵器高台付坏はそれらからやや離れた位置でみつかっている。11 の土錘はＰ３近くの床面直上から出土している。12 の石製勾玉は住居内中央やや南寄りの床面直上から出土している。13 の剣形石製品は壁溝上の覆土下層から出土している。14 の鉄鎌は南東壁の土器が集中している中に紛れ込んでいた。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代（７世紀後半）と考えられる。



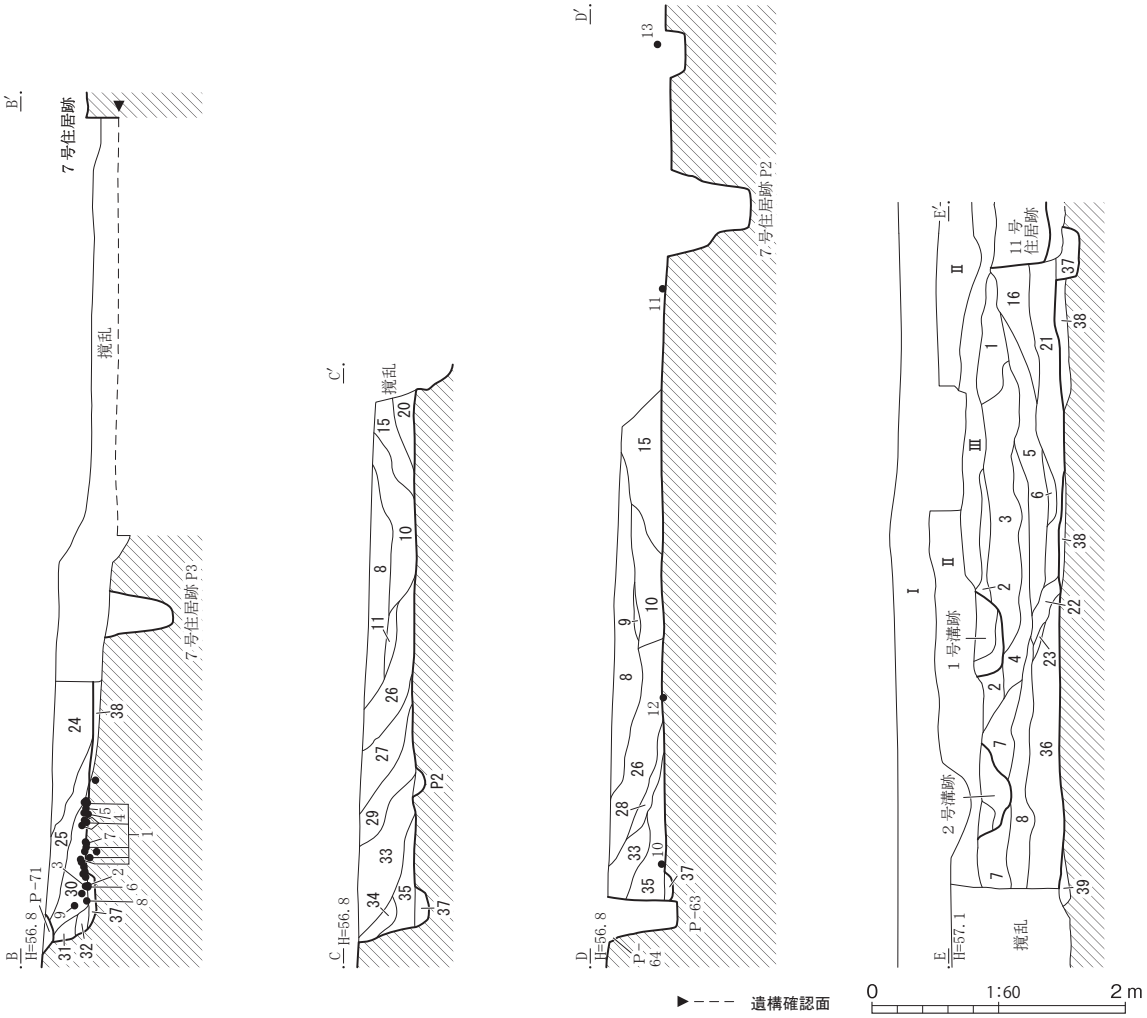
第12号住居跡P1～3土層説明

第１層：暗褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第２層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。
第３層：暗褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）多量。
第４層：にぶい黄褐色土層　しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・礫（径0.6～３cm）多量。

第13号住居跡土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量。
第２層：黒褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。
第３層：褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第４層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第34図　第12・13号住居跡（１）



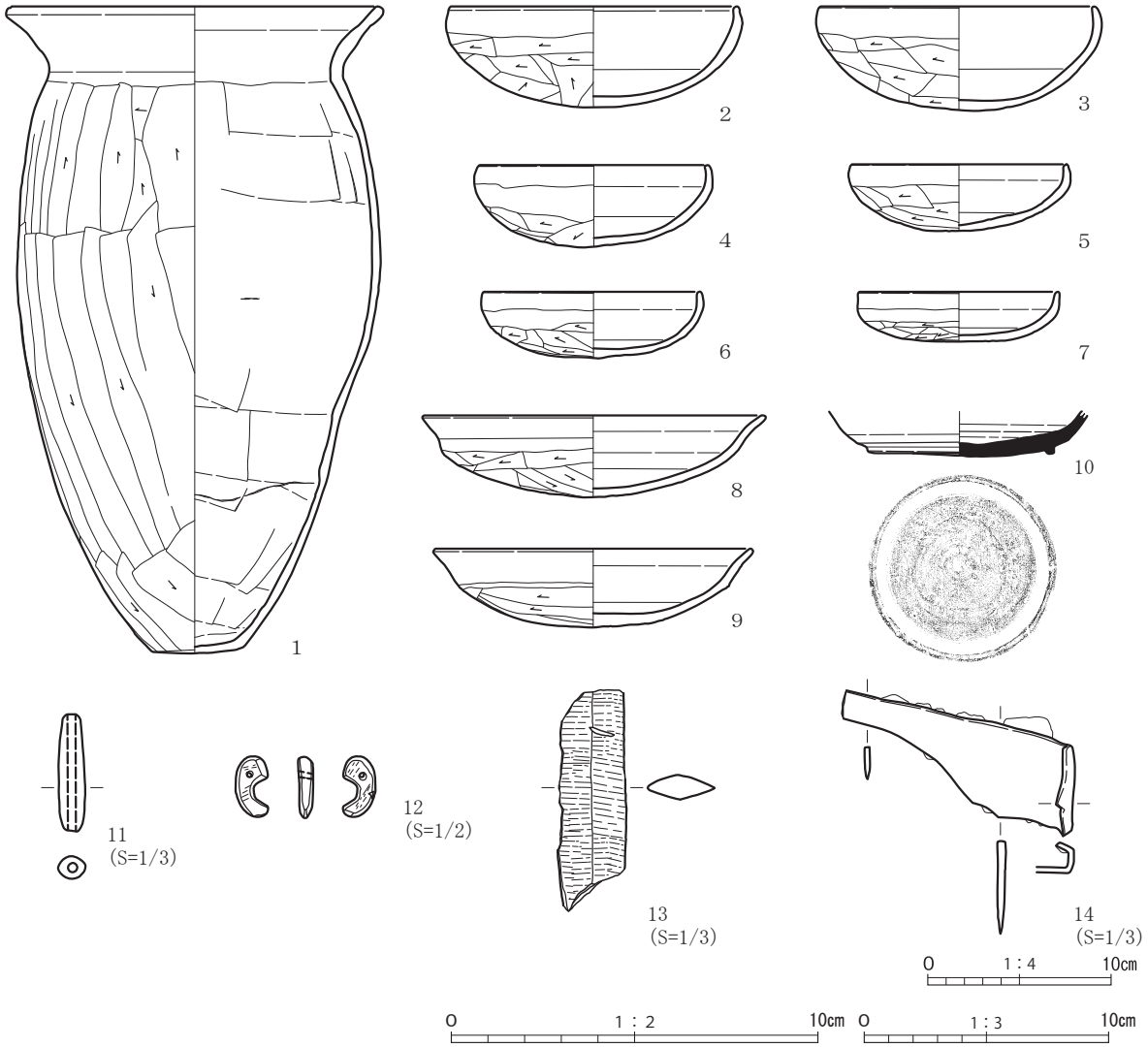
第12号住居跡土層説明

第１層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・礫（径0.6～２cm）・微細土器片少量。
第２層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第３層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～２cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第４層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）微量。
第５層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）微量。
第６層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。
第７層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・礫（径0.6～１cm）微量。
第８層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第９層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第10層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第11層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第12層：褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第13層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第14層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第15層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～２cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第16層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・礫（径0.6～３cm）微量。
第17層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第18層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～２cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第19層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第20層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性強い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第21層：黒褐色土層	しまりあり。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.3cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・礫（径0.6～２cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）少量。
第22層：暗褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。
第23層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～２cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第24層：暗褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量。

第35図　第12・13号住居跡（２）

第25層：暗褐色土層　しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第26層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第27層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第28層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～２cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第29層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）少量。
第30層：暗褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第31層：暗褐色土層　しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～２cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第32層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）少量。
第33層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第34層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）少量。
第35層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第36層：にぶい黄褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.3cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.5cm）少量、灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第37層：にぶい黄褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）多量。壁溝覆土。
第38層：にぶい黄褐色土層　しまり強い。粘性強い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・灰黄褐色粘土ブロック（径0.6～１cm）・灰黄褐色粘土粒子（径0.1～0.2cm）多量。貼床。
第39層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。掘り方覆土。

第36図　第12・13号住居跡（３）



第37図　第12号住居跡出土遺物

第 12 表　第 12 号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口径 20.5、底径 5.0、器高 35.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。D. 内外－にぶい黄橙色。E. 白色粒・黒色粒・石英・角閃石。F. 3/4。G. 外面胴部～底部にススト付着。外面に粘土付着。H. 壁溝直上。
2	坏	A. 口径 15.7、器高 5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ後ミガキ（暗文）。D. 外－浅黄橙色、内－明黄褐色。E. 白色粒・角閃石・石英。F. ほぼ完形。G. 内面にタール状付着物。H. 壁溝直上。
3	坏	A. 口径 15.0、器高 5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ後ミガキ（暗文）。D. 外－にぶい黄橙色、内－明黄褐色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 完形。H. 壁溝直上。
4	坏	A. 口径 12.5、器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－浅黄橙色、内－にぶい黄褐色。E. 石英・白色粒・角閃石。F. 完形。H. 壁溝直上。
5	坏	A. 口径 11.8、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－明黄褐色、内－黄橙色。E. 石英・白色粒・角閃石。F. 完形。G. 内面摩耗。H. 壁溝直上。
6	坏	A. 口径 11.9、器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－にぶい橙色、内－橙色。E. 石英・白色粒・角閃石。F. ほぼ完形。H. 壁溝直上。
7	坏	A. 口径 10.9、器高 2.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外－明黄褐色、内－黄橙色。E. チャート・石英・角閃石・白色粒。F. ほぼ完形。H. 壁溝直上。
8	坏	A. 口径 18.7、器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外－明黄褐色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. ほぼ完形。H. 壁溝直上。
9	坏	A. 口径 17.4、器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 内外－橙色。E. 黒色粒・石英・角閃石・白色粒。F. ほぼ完形。H. 壁溝直上。
10	須恵器 高台付坏	A. 底径 10.1、器高 [2.6]。B. ロクロ成形。C. 外面体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。内面体部～底部回転ナデ。D. 内外－灰白色。E. 黒色粒・石英・白色粒。F. 底部ほぼ完形。G. 還元焔焼成。H. 壁溝直上。
11	土錘	A. 長 4.8、幅 1.1、厚さ 0.9、孔径 0.35、重さ 5.1。C. ナデ。D. にぶい橙色。E. 黒色粒・石英。F. 完形。H. 床面。
12	石製勾玉	A. 長さ 1.65、幅 0.9、厚さ 0.4、孔径 0.15、重さ 1.0。E. 滑石。F. 完形。G. 片側穿孔。H. 床面。
13	剣形 石製品	A. 長さ 9.1、幅 2.8、厚さ 1.1、重さ 34.8。E. 蛇紋岩。F. 剣身部破片。H. 覆土下層。
14	鉄鎌	A. 長さ [9.5]、幅 3.8、厚さ 0.2 ～ 0.3、重さ 36.8。B. 鍛造。F. 先端部欠損。G. 刃部砥ぎ減り。H. 壁溝直上。

第 13 号住居跡（第 34 ～ 37 図、図版４）

Ｂ区中央東壁際に位置する。重複する第 12 号住居跡に切られている。掘削時、土坑と認識していたが、埋没状況を確認したところ、壁溝と思われる掘り込みが確認されたため、住居跡とした。

住居跡の東側は調査区外にあり、西側を第 12 号住居跡に削平されているため、全容は不明である。規模は、南北方向が 60cm 以上、東西方向が 35cm 以上を測る。住居跡の主軸方位は、不明である。

壁は、急な角度をもって立ち上がる。確認面から床面までの深さは、16cm である。壁溝は掘削時に認識できなかったが、調査区壁面において逆台形状の掘り込み痕が確認された。床面もまた、掘削時に認識できなかったが、調査区壁面においてローム粒子や焼土粒子を含む褐色土及び暗褐色土で平坦に埋め戻した貼床がみられた。

カマドまたは炉跡、ピットは検出できなかった。

遺物は、出土していない。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、飛鳥時代（７世紀後半）以前と考えられる。

２．掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第 38 図、第 13 表、図版４）

Ｂ区南西側東寄りに位置する。重複する第 10 号住居跡、第５号土坑を切っている。第３号住居跡、第３号溝跡、第６号土坑、Ｐ -33 ～ 36・38 ～ 40・43・44・51・53・56・58・65 ～ 67・76 との新旧関係は、不明である。

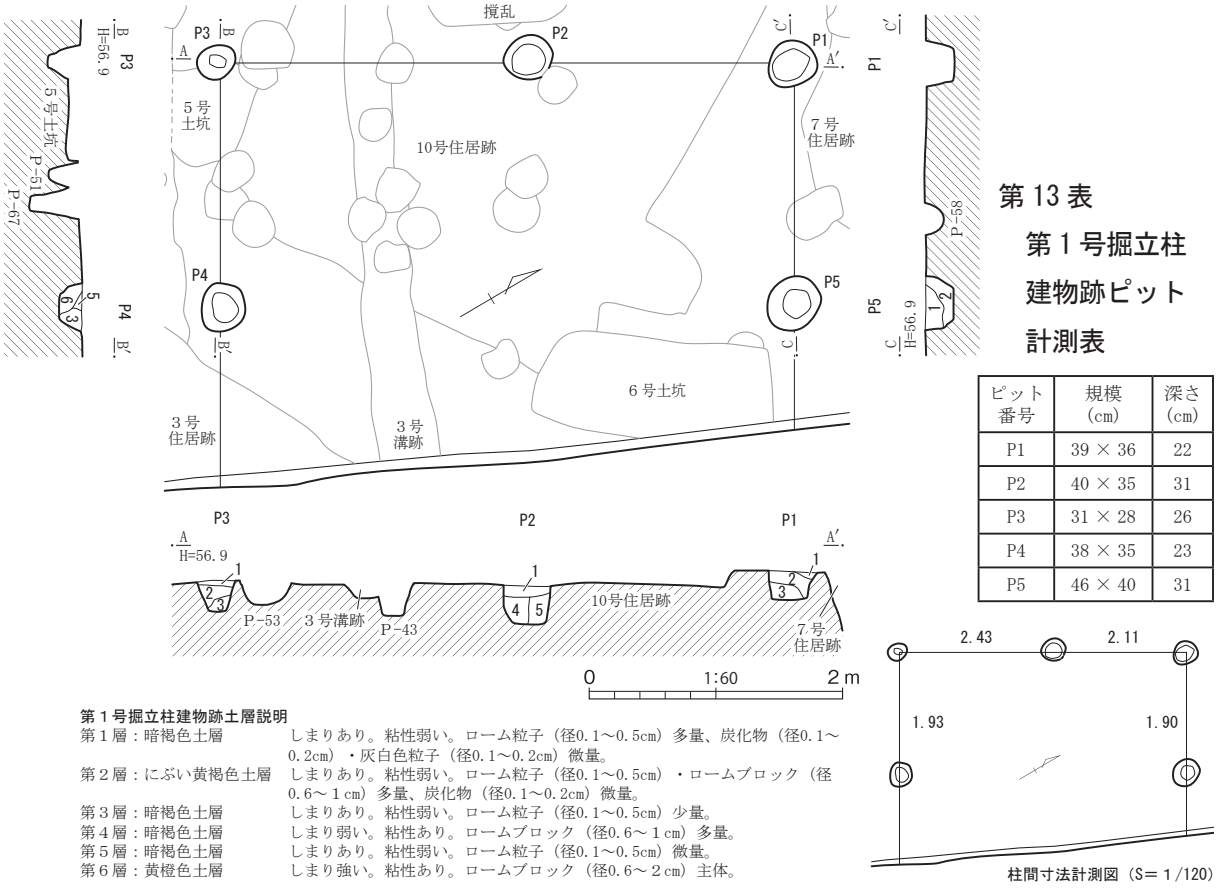
建物跡の形態は、建物の東側が調査区外に延びる可能性があるため、東西軸方向が２間以上、南北軸方向が２間の側柱建物と想定される。規模は、南北軸方向が 1.93 m以上、東西軸方向が 4.54 mで、面積 8.76 ㎡以上を測る。建物の東西軸方向は、Ｎ -60°－Ｗに向いている。

柱通りは良く、南北軸・東西軸方向とも柱穴は直線上に並んでいる。柱間寸法の計測値は、第 38 図に示した。柱間は、東西軸方向が１間 1.90 ～ 1.93 m、南北軸方向は１間 2.11 ～ 2.43 mの間隔で、ともに南側がやや広い。

柱穴の規模は、第 13 表に示した。平面形は長軸 31 ～ 46 ㎝、短軸 28 ～ 40 ㎝の楕円形を呈し、確認面から底面までの深さは、22 ～ 31 ㎝を測る。覆土は、多量のローム粒子やロームブロック、微量の炭化物、灰白色粒子を含む暗褐色土やにぶい黄褐色土、黄橙色土である。柱穴内からは、明確な柱痕は認められていない。

遺物は、Ｐ１～３の覆土中から、土師器甕や坏、須恵器甕の破片が僅かに出土している。

本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）以降と考えられる。



第 13 表　第１号掘立柱建物跡ピット計測表

ピット番号	規模（cm）	深さ（cm）
P1	39 × 36	22
P2	40 × 35	31
P3	31 × 28	26
P4	38 × 35	23
P5	46 × 40	31

第１号掘立柱建物跡土層説明

第１層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第２層：にぶい黄褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第３層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
第４層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性あり。ロームブロック（径0.6～１cm）多量。
第５層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第６層：黄橙色土層　しまり強い。粘性あり。ロームブロック（径0.6～２cm）主体。

第 38 図　第１号掘立柱建物跡

３．土　　坑

第１号土坑（第 40 図、図版４）

Ａ区南西側中央に位置する。重複する第２号溝跡、Ｐ -21・23 に切られる。形態は、隅丸長方形を呈している。規模は、長軸 1.47 m以上、短軸 1.16 m以上を測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面から底面までの深さは、14cm である。覆土は、多量のローム粒子やロームブロックと微量の灰白色粒子を含む黒褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から土師器坏の細片が僅かに出土している。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）以前と推測される。

第２号土坑（第 39・40 図、第 14 表、図版５）

Ａ区南西側南東寄りに位置する。重複する第２号溝跡に切られる。遺構が調査区外まで延びているため、形態は不明である。規模は、長軸 1.20 m以上、短軸 0.35 m以上を測る。底面は平坦で、壁は急な角度をもって立ち上がる。確認面から底面までの深さは、43cm である。覆土は、多量のローム粒子と微量のロームブロック・焼土粒子・炭化物・灰白色粒子を含む黒褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から少量の土師器甕・坏の破片と小形壺が出土している。そのうちの１点を図示する（第 39 図）。１の小形壺は完形で、壁際の覆土中層から出土している。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）以前と推測される。

第 39 図　第２号土坑出土遺物

第 14 表　第２号土坑出土遺物観察表

1	小形壺	A. 口径 4.8、器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、胴部～底部ナデ。D. 内外ーにぶい橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 完形。G. 内外面にタール状付着物。H. 覆土中層。

第３号土坑（第 40 図）

Ｂ区南西側南東壁際に位置する。重複する第３号住居跡を切っている。遺構が調査区外まで延びているため、形態は不明である。規模は、長軸 62cm 以上、短軸 15cm 以上を測る。底面に起伏がある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面から底面までの深さは、23cm である。覆土は、微量のローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を主体としている。遺物は出土していない。本土坑の時期は、遺構の重複関係から、平安時代（９世紀前半）以降と推定される。

第４号土坑（第 40 図、図版５）

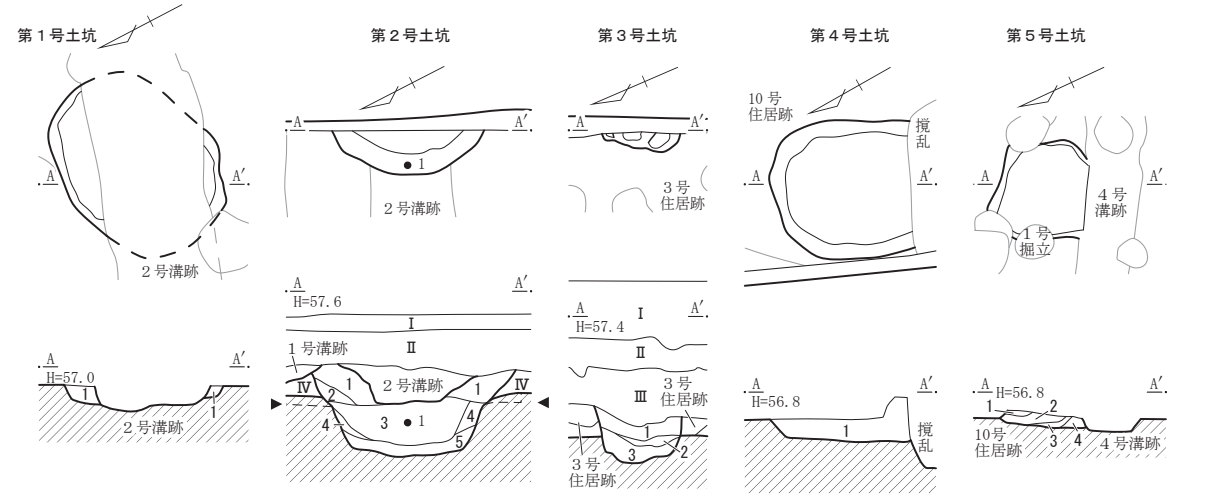
Ｂ区南西側西壁際に位置する。重複する第 10 号住居跡を切っている。南西側が後世の撹乱による削平を受ける。形態は、楕円形を呈している。規模は、長軸 1.12 m以上、短軸 1.10 mを測る。底面は平坦で、壁は急な角度をもって立ち上がる。確認面から底面までの深さは、20cm である。覆土は、少量のローム粒子やロームブロックと微量な焼土粒子を含む黒褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から土師器甕・坏の破片が少量出土している。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）以降と推定される。

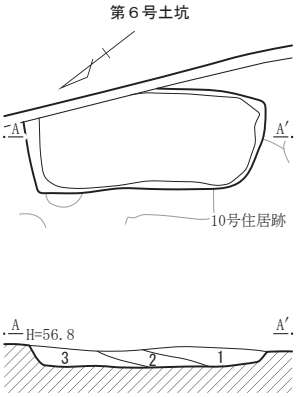
第５号土坑（第 40 図、図版５）

Ｂ区南西側中央に位置する。重複する第 10 号住居跡、第１号掘立柱建物跡、第４号溝跡、Ｐ -51・56 に切られる。形態は、不整形を呈している。規模は、長軸 77cm、短軸 73cm 以上を測る。底面に細かな起伏がある。壁は緩やかな傾斜で立ち上がる。確認面から底面までの深さは、７cm である。覆土は、多量のローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土である。遺物は、覆土中から土師器甕・坏、須恵器坏の破片が僅かに出土している。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）以前と推定される。

第６号土坑（第 40 図、図版５）

Ｂ区南西側東壁際に位置する。重複する第 10 号住居跡を切っている。Ｐ -76 との新旧関係は、不明である。形態は、やや歪んだ長方形を呈している。規模は、長軸 1.91 m、短軸 0.60 mを測る。底面は平坦で、壁は急な角度をもって立ち上がる。確認面から底面までの深さは、18cm である。覆





第１号土坑土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～３cm）少量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第２号土坑土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第２層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.2cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第３層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
第４層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。
第５層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～２cm）少量。

第３号土坑土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第２層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第３層：黒褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～２cm）多量。

第４号土坑土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～１cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第５号土坑土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第２層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。
第３層：にぶい黄褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）多量。
第４層：暗褐色土層　しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。

第６号土坑土層説明

第１層：黒褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）少量。
第２層：にぶい黄褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～２cm）多量。
第３層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～１cm）少量。

第 40 図　土坑

土は、大量のローム粒子や多量のロームブロック、少量の炭化物を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土である。遺物は、覆土中から土師器甕・坏、焼成粘土塊の破片が少量出土している。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代（９世紀前半）以降と推定される。

４．溝　　跡

第１号溝跡（第 41 図、図版５）

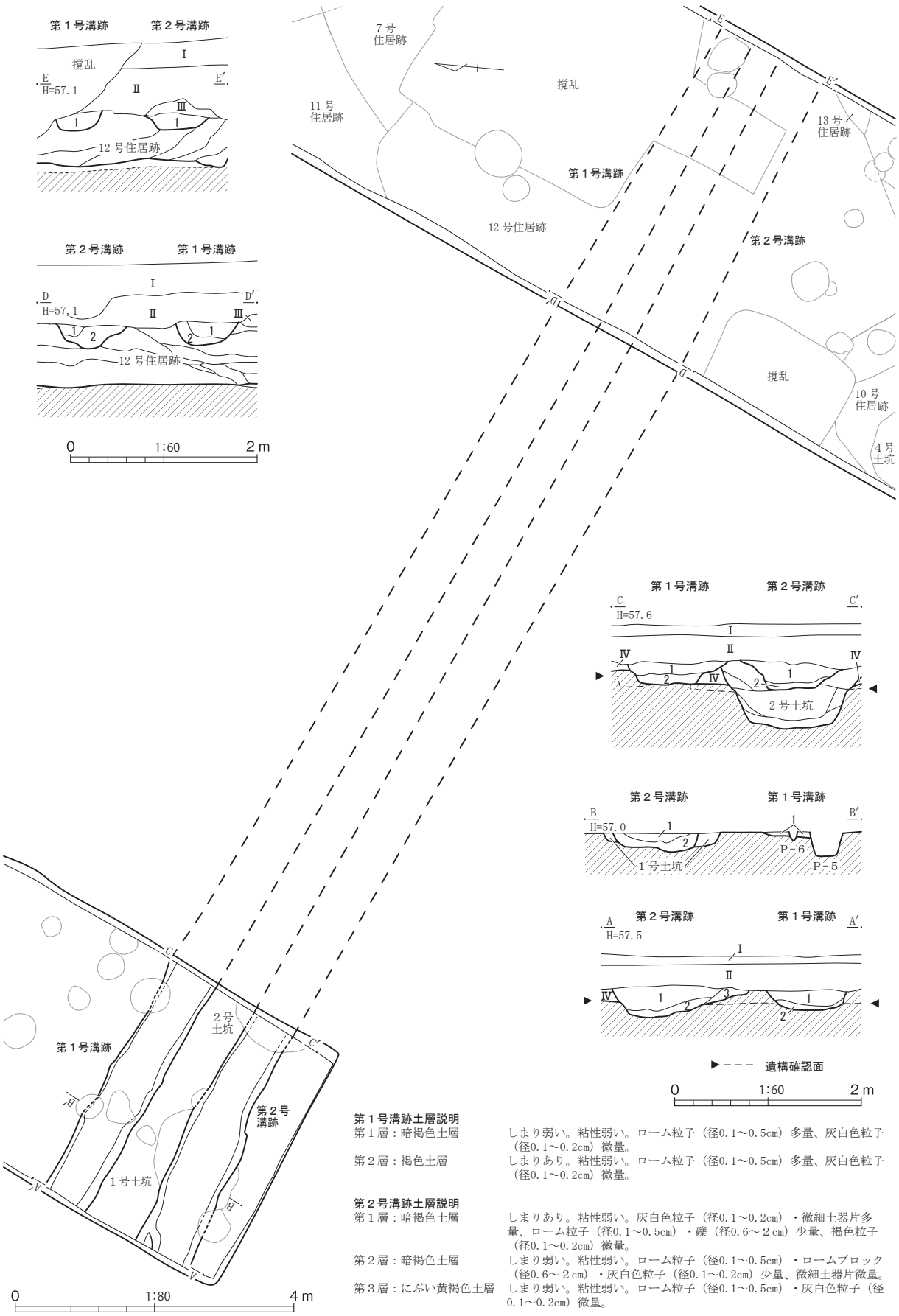
Ａ区南西側、Ｂ区中央に位置する。重複するＰ－５・６に切られ、第 12 号住居跡、Ｐ -22 を切っている。溝の方向は、北西から南東の方向へ直線的に延びており、第２号溝跡と並走している。Ｂ区では平面形態を検出できなかったものの、調査区東西の壁面において第１号溝跡の延長上に位置し、第 12 号住居跡を切る溝跡の痕跡を確認することができ、平行する第２～４号溝跡のほかに周囲から溝跡が認められないため、今回の調査では同一のものとして判断した。規模は、残存長 3.71 m（推定長 19.28 m）、上幅が 65 ～ 78cm、下幅 44 ～ 60cm を測り、確認面から底面までの深さは、７～ 12cm である。断面の形態は、底面が平坦で、壁が急な角度をもって立ち上がる逆台形状を呈している。覆土は、多量のローム粒子と微量の灰白色粒子を含む暗褐色土・褐色土である。遺物は、覆土中から土師器甕・坏・高坏の破片が僅かに出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相、基本層序との関係から平安時代（９世紀前半）から中世と推定される。本遺構の性格については、区画を目的とした溝と考えられる。

第２号溝跡（第 41 図、図版５）

Ａ区南西側、Ｂ区中央に位置する。重複する第１・２号土坑、Ｐ -21･23 を切っている。溝の方向は、北西から南東の方向へ直線的に延びており、第１号溝跡と並走している。本遺構もまた、Ｂ区において第１号溝跡と同様の状態が確認されている。規模は、残存長 3.40 m（推定長 19.28 m）上幅が 65 ～ 95cm、下幅 48 ～ 77cm を測り、確認面から底面までの深さは、８～ 17cm である。断面の形態は、底面が平坦で、壁が急な角度をもって立ち上がる逆台形状を呈している。覆土は、ローム粒子・ロームブロック・灰白色粒子・褐色粒子を含む暗褐色土・にぶい黄褐色土である。遺物は、覆土中から土師器甕・坏、須恵器甕の破片が多量に出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相、基本層序との関係から平安時代（９世紀前半）から中世と推定される。本遺構の性格については、区画を目的とした溝と考えられる。

第３号溝跡（第 42 図、図版５）

Ｂ区南西側中央に位置する。重複するＰ -33 ～ 36･43･65 に切られ、第 10 号住居跡を切っている。溝の方向は、北西から南東の方向へ直線的に延びており、第４号溝跡と並走している。規模は、残存長 4.48 m、上幅が 32 ～ 50cm、下幅 13 ～ 29cm を測り、確認面から底面までの深さは、10 ～ 18cm である。断面の形態は、底面が平坦で、壁が急な角度をもって立ち上がる逆台形状を呈している。覆土は、多量のローム粒子と微量のロームブロック・炭化物を含むにぶい黄褐色土・黒褐色土・暗褐色土である。遺物は、覆土中から土師器甕･坏、須恵器壺の破片が少量出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相、基本層序との関係から平安時代（９世紀前半）から中世と推定さ



第１号溝跡土層説明

第１層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第２層：褐色土層　しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第２号溝跡土層説明

第１層：暗褐色土層　しまりあり。粘性弱い。灰白色粒子（径0.1～0.2cm）・微細土器片多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・礫（径0.6～２cm）少量、褐色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第２層：暗褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～２cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）少量、微細土器片微量。

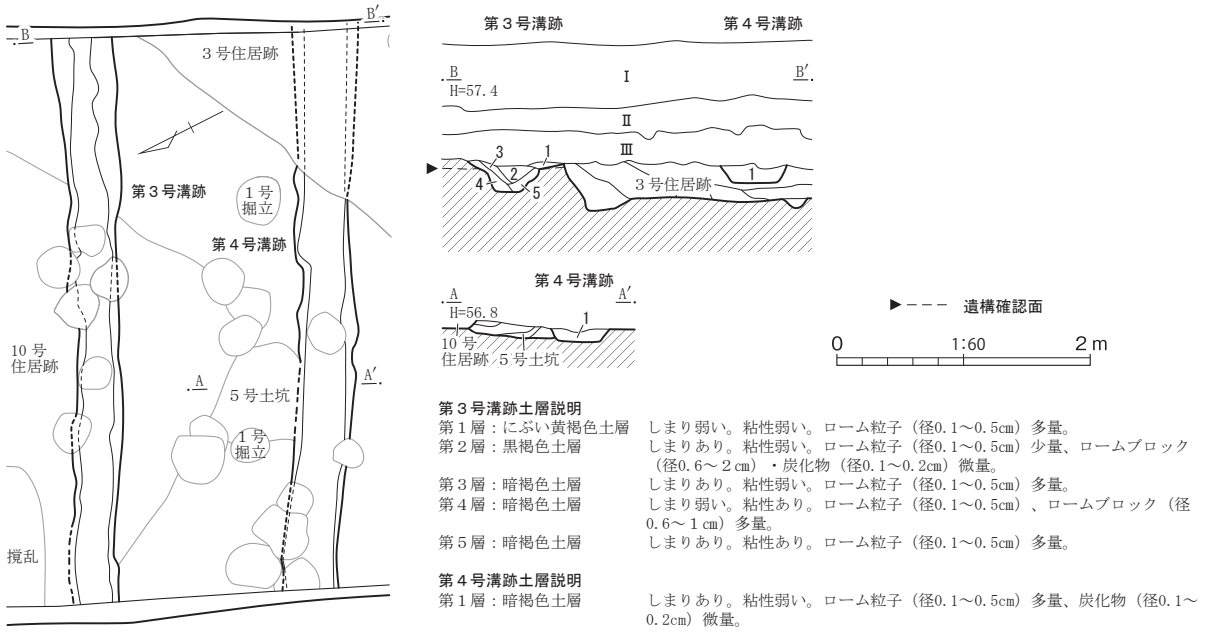
第３層：にぶい黄褐色土層　しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・灰白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。

第 41 図　第１・２号溝跡

れる。本遺構の性格については、区画を目的とした溝と考えられる。

第４号溝跡（第 42 図、図版５）

Ｂ区南西側中央に位置する。重複するＰ -41・46・52・54・55・73 に切られ、第３号住居跡を切っている。溝の方向は、北西から南東の方向へ直線的に延びており、第３号溝跡と並走している。規模は、残存長 4.42 ｍ、上幅が 37 ～ 44cm、下幅 27 ～ 36cm を測り、確認面から底面までの深さは、９～ 13cm である。断面の形態は、底面が平坦で、壁が急な角度をもって立ち上がる逆台形状を呈している。覆土は、多量のローム粒子と微量の炭化物を含む暗褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から土師器甕・高坏の破片が少量出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相､基本層序との関係から平安時代（９世紀前半）から中世と推定される。本遺構の性格については、区画を目的とした溝と考えられる。



第 42 図　第３・４号溝跡

５．ピット群（第 43・44 図、第 15 ～ 17 表、図版５・８）

掘立柱建物跡の柱穴を除き、84 基のピットを検出した。ピットは、Ａ区では調査区内に点在しているが、Ｂ区では南西側で密集した状況で確認されている。これらのピットが掘立柱建物や柵列などの遺構を構成するとは認識できなかったため、本書ではピット群として扱った。各ピットの規模や形状、覆土、出土遺物、重複関係を第 15・16 表に示す。覆土は、肉眼観察により主体となる色調・含有物から、ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む黒褐色土（A）、ローム粒子・炭化物･灰白色粒子を含む暗褐色土（B）、ローム粒子･ロームブロック･灰白色粒子を含む褐色土（C）に分類して記録を行ったのち完掘した。なお、それぞれの覆土には、礫（径 0.2 ～ 10 ㎝）を多少含むものがある。

遺物は、各ピットから土師器甕・坏・高坏・壺、須恵器甕・坏の破片が僅かに出土している。そのうち、Ｐ -21 底面付近から出土した完形の土師器坏を図示する（第 44 図）。

第43図　A・B区ピット群

第 15 表　ピット計測表（１）

ピット番号	平面形状	規模［cm］	深さ（cm）	覆土	出土遺物	備　　考
Ｐ－１	不明	17 × ［10］	55	B		１住と重複。第Ⅲ層を掘り込む。
Ｐ－２	不明	33 × ［15］	62	A		第Ⅱ層を掘り込む。
Ｐ－３	楕円形	33 × ［32］	28	A	坏片 3	２住と重複。
Ｐ－４	楕円形	25 × 22	24	A		２住と重複。
Ｐ－５	楕円形	40 × 34	25	B		１溝と重複。
Ｐ－６	楕円形	46 × 30	45	B		１溝と重複。
Ｐ－７	楕円形	30 × 24	25	A		
Ｐ－８	楕円形	34 × 30	42	A	甕・壺・坏片 11	
Ｐ－９	楕円形	37 × 34	24	B		
Ｐ－10	不明	［27］× ［8］	35	A		第Ⅲ層を掘り込む。柱痕確認。
Ｐ－11	楕円形	29 × 24	18	A	甕・坏片 4	１住と重複。
Ｐ－12	隅丸長方形	49 × 44	26	A	甕・坏片 10、須恵器坏片 1、礫	１住と重複。
Ｐ－13	楕円形	42 × ［38］	42	B	甕片 2	第Ⅲ層を掘り込む。柱痕確認。
Ｐ－14	円形	28 × 27	25	A		
Ｐ－15	楕円形	36 × 30	38	B	甕・坏片 17	
Ｐ－16	円形	29 × 28	15	B	坏片 8	３住と重複。
Ｐ－17	楕円形	24 × 23	26	A	坏片 1	
Ｐ－18	楕円形	37 × 32	40	A		２住と重複。
Ｐ－19	楕円形	26 × 24	24	A	坏片 1	
Ｐ－20	楕円形	53 × 47	46	C	甕片 2	柱痕確認。
Ｐ－21	円形	47 × 47	49	C	坏 1、甕・坏細片、礫	１土・２溝と重複。柱痕確認。
Ｐ－22	楕円形	58 × 50	42	A	甕片 2	１溝と重複。柱痕確認。
Ｐ－23	不明	［36］× ［20］	11	A		１土・２溝と重複。
Ｐ－24	楕円形	43 × 35	31	B	坏片 2	
Ｐ－25	楕円形	29 × 25	13	A		３住と重複。
Ｐ－26	不整形	40 × 39	19	B	甕・坏片 14	３住・Ｐ－27 と重複。
Ｐ－27	隅丸長方形	45 × 34	21	A		３住・Ｐ－26 と重複。
Ｐ－28	楕円形	48 × 39	27	A	甕・坏・須恵器甕細片	３住・Ｐ－29 と重複。
Ｐ－29	楕円形	［60］× 52	32	B	甕・高坏・坏細片	３住・Ｐ－28 と重複。
Ｐ－30	楕円形	36 × 31	24	B		３住と重複。底面に礫。
Ｐ－31	楕円形	35 × 33	22	B	坏片 2	３住と重複。
Ｐ－32	楕円形	26 × 23	7	B		３住と重複。
Ｐ－33	不明	［35］× ［31］	14	B		10 住・３溝と重複。
Ｐ－34	楕円形	36 × 34	18	A	坏片 6	10 住・３溝と重複。底面硬化。
Ｐ－35	楕円形	［36］× ［31］	17	A		10 住・３溝と重複。
Ｐ－36	楕円形	31 × 26	30	B	坏片 2	10 住・３溝と重複。
Ｐ－37	不明	［25］× ［10］	22	A		10 住・攪乱と重複。底面硬化。
Ｐ－38	円形	31 × 30	11	A		10 住・１掘立 P2 と重複。
Ｐ－39	円形	37 × ［33］	23	B	坏片 1	10 住・Ｐ－44 と重複。
Ｐ－40	楕円形	33 × 29	22	A		10 住と重複。
Ｐ－41	楕円形	45 × 40	56	A	甕・坏片 10	４溝・Ｐ－54・73 と重複。

第 16 表　ピット計測表（２）

ピット番号	平面形状	規模［cm］	深さ（cm）	覆土	出土遺物	備　　考
P -42	円形	29 × 28	13	B		12 住と重複。
P -43	楕円形	34 × 30	26	A		10 住・３溝と重複。
P -44	楕円形	36 × 32	23	A		10 住・P -39 と重複。
P -45	円形	21 × 20	8	B		12 住 P1 と重複。
P -46	楕円形	25 × 20	12	A		４溝と重複。
P -47	楕円形	［49］× 48	44	B		P -48・68 と重複。
P -48	楕円形	［55］× 38	47	A		P -47・49・60 と重複。
P -49	楕円形	［23］× 23	27	B		P -48・50・60 と重複。
P -50	楕円形	36 × 29	28	B		３住・P -49 と重複。
P -51	楕円形	36 × 28	22	B	甕・高坏・坏細片	10 住・５土・P -67 と重複。
P -52	楕円形	33 × 28	32	A		４溝と重複。
P -53	楕円形	42 × 39	20	A	坏片 3	10 住・P -56 と重複。
P -54	楕円形	44 × 34	36	A	甕・坏片 7	P -41・55 と重複。柱痕確認。
P -55	楕円形	［36］×［30］	16	B		４溝・P -54 と重複。
P -56	楕円形	36 ×［22］	20	A		10 住・５土・P -53 と重複。
P -57	円形	33 × 33	38	A		P -77 と重複。
P -58	円形	33 ×［25］	19	A	甕・坏片 7	P -59 と重複。
P -59	楕円形	29 ×［26］	33	B	坏片 2	12 住・P -58 と重複。
P -60	楕円形	34 × 23	26	A		３住・P -48・49・62 と重複。
P -61	楕円形	30 × 24	33	B		P -77 と重複。
P -62	楕円形	51 × 39	27	A		３住・P -60 と重複。
P -63	楕円形	39 × 30	58	B	甕・高坏・坏片 4	12 住・P -64 と重複。
P -64	不明	［25］×［18］	30	B		12 住・P -63 と重複。
P -65	楕円形	28 × 24	13	A		10 住・３溝と重複。
P -66	楕円形	38 × 33	40	A	甕片 1	10 住・P -67 と重複。
P -67	楕円形	36 ×［35］	38	A	須恵器甕片 1	10 住・P -51・66 と重複。
P -68	円形	36 ×［18］	16	A		P -47 と重複。
P -69	楕円形	34 × 29	35	A	坏片 11	
P -70	円形	28 × 28	24	A	坏片 3	12 住・P -71 と重複。
P -71	円形	［22］×［15］	21	A		12 住・P -70 と重複。
P -72	楕円形	［25］×［20］	15	A	甕片 3	
P -73	隅丸方形	26 ×［24］	14	A		４溝・P -41 と重複。
P -74	楕円形	39 × 34	25	A		
P -75	楕円形	37 × 33	41	A	甕片 1	
P -76	楕円形	32 × 29	26	B		６土と重複。
P -77	楕円形	37 ×［28］	34	C		P -57・61 と重複。
P -78	不明	［27］×［16］	31	C		
P -79	楕円形	41 ×［36］	29	A		
P -80	楕円形	27 × 25	30	B		３住と重複。
P -81	楕円形	28 × 25	34	B		３住と重複。
P -82	楕円形	29 × 26	16	A		
P -83	楕円形	［40］×［36］	20	A		３住と重複。柱痕確認。
P -84	不明	－ × －	33	B		１住と重複。

第 44 図　第 21 号ピット出土遺物

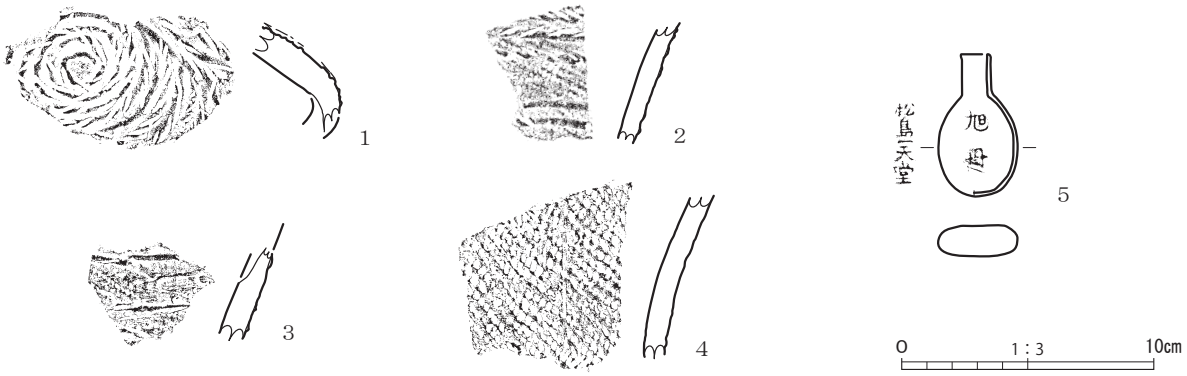
第 17 表　第 21 号ピット出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.3、器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 外ーにぶい橙、内ー橙色。E. 黒色粒・白色粒・石英。F. ほぼ完形。H. 覆土中。

６．調査区内出土遺物（第 45 図、第 18 表、図版８）

調査区内出土遺物として、５点を図示した（第 45 図）。いずれも、遺構内覆土中から出土したものである。

１～４は縄文土器で、住居覆土中から出土したものである。１～３の深鉢は、前期後葉に属するものである。単節縄文を地文とし、浮線文を施している。４の深鉢は、器面に単節縄文を施文したものである。５は撹乱から出土した、ガラス製の薬瓶である。口縁部が僅かに欠けている。コルク栓で扁平、胴部横断面楕円形で、無色透明である。一般用薬瓶（売薬瓶）のようで、外面に「旭丹」「松島一天堂」の陽刻（エンボス）がなされている。近現代のものと思われる。



第 45 図　調査区内出土遺物

第 18 表　調査区内出土遺物観察表

1	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面浮線文による重渦巻文・弧線文。内面ミガキ。D. 内外ーにぶい黄橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 口縁部破片。G. 諸磯ｂ式。H. 4 住覆土中。
2	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面地文に RL 単節縄文施文後、浮線文による横帯区画。内面ヘラケズリ後、ミガキ。D. 外ー明黄褐色、内ーにぶい黄橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 胴部破片。G. 諸磯ｂ式。H. 5 住覆土中。
3	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面地文に RL 単節縄文施文後、浮線文による横帯区画。内面ミガキ。D. 内外ー浅黄橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 胴部破片。G. 諸磯ｂ式。H. 8 住覆土中。
4	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面地文に RL 単節縄文施文。内面ミガキ。D. 外ー橙色、内ーにぶい橙色。E. 白色粒・石英・角閃石。F. 胴部破片。H. 12 住覆土中。
5	ガラス製薬瓶	A. 口径 1.2、器高 5.6。B. 金型成形。D. 内外ー透明色。F. ほぼ完形。G. 表に「旭丹」、裏に「松島一天堂」の陽刻（エンボス）。H. 撹乱。

第Ⅳ章　まとめ

小島仕切沢南遺跡は、本調査によって飛鳥時代から平安時代にかけての集落を中心とする遺跡であることが確認された。検出された遺構は、竪穴住居跡 13 軒、掘立柱建物跡１棟、土坑６基、溝跡４条、ピット 84 基である。また、遺物や遺構は特定できなかったものの、竪穴住居跡や溝跡を被覆する As-B や微細土器片を含む基本層序第Ⅲ層の存在から、中世における整地や造成が想定される。

１．集落について

本調査で検出された竪穴住居跡は 13 軒である。Ａ区では調査区内北東側、Ｂ区では調査区内に万遍なく配置され、中央から北東部にかけて重複しあう。埋没状況から新旧関係を整理すると、次のようになる（第３・10 号住居跡は単独での検出）。

Ａ区　（古）第１号→第２号（新）

Ｂ区　（古）第７号→第 12 号→第 11 号→第６号→第８号→第４号（新）

第13号↗　　第９号→第５号↗

竪穴住居跡からは時期を示す遺物が多数出土している。土師器が主体を占め、須恵器はほとんど見られない。土師器の器種組成は甕・鉢・坏・小形壺で、出土総量における比率では、坏が最も多い。出土状況をみると、覆土中から出土する土師器は小破片や破損したものが大半であるが、床面付近で正位や倒立の状態で検出された土師器は完形品が多く、残存状態はおおむね良好といえる。特に第 12 号住居跡では、完形品を含む土師器甕・坏が住居壁に沿うようにまとまって確認されている。こうした遺物の様相から竪穴住居跡の時代を整理すると、以下のようになる。なお、第 13 号住居跡から遺物は出土していないため、時期は不詳である。

飛鳥時代から奈良時代前半（７世紀後半から８世紀前半）・・・第１・５・７・９・11・12 住居跡

奈良時代後半から平安時代（８世紀後半から９世紀前半）・・・第６・８・10 号住居跡

平安時代（９世紀前半）・・・第２・３・４号住居跡

先にみた住居跡間の重複関係と住居内から出土した遺物で示される新旧関係には齟齬がなく、本遺跡の集落は飛鳥時代（７世紀後半）に形成され始め、平安時代（９世紀前半）まで継続していたようである。また、本遺跡西方には埋没谷が刻まれていることや、本調査区における竪穴住居跡の検出位置と市教育委員会で行った事前調査の成果から判断すると、集落域は東側に広がっていると想定される。従って、本庄台地北縁部の一端に、本遺跡を西限として、本遺跡北東方に位置する小島仕切沢遺跡に至る一帯に飛鳥時代から平安時代の集落が形成されていたと推測される。

本遺跡では、土師器坏が最も多く出土しているが、注目されるのは製作の過程を示す土師器片が出土していることである。第４号住居跡出土坏底部（第 15 図７）を代表的なものとして図示した。この底部片では、坏身側に工具で削り取られている痕跡が見てとれる。隣接する小島仕切沢遺跡でもこうした土師器片が出土しており、また、削り取られず底部に突起を持ったまま土師器坏として製作されたものも出土している。この土師器坏について、製作工程の検討が行われている（小此木 2019）。底部に突起を持つ土師器坏の機能・用途については不明としているものの、突起部が残る削りくずを焼成したものが同時に出土していることから、小島仕切沢遺跡では集落内で土師器生産が行われていたことを示唆している。この土師器坏を、共伴遺物から奈良時代前半から平安時代（８世紀前半から

９世紀前半）に位置づけている。本遺跡でも、同様の遺物が出土していることから、土師器坏の生産が行われていた可能性がある。本遺跡北西に位置する石神境遺跡では住居内から焼き歪んだ土師器坏が大量に検出されており、７世紀における土器生産を担う集落の一つとされている（太田 2014）。多くの土師器坏が掲載されている中に、底部に突起を持つ土師器坏が１点図示されている。報告では、この土師器を高坏の脚接合部を調整して坏にしたものと想定しているが、本遺跡や小島仕切沢遺跡と同様の工程で製作された土師器坏であると思われる。なお、石神境遺跡から供給されたと思われる土師器坏が近隣の上里町北稲塚遺跡や田通遺跡で出土しているが、その中にも同じ特徴をもった土師器坏が僅かに確認できる。こうしたことから、本遺跡を含めた本庄台地縁辺部の一部では、土師器坏の生産が行われていたと考えられ、また、底部に突起を持つ土師器坏という特色のある土師器坏は、限られた集落または地域で製作・使用されていたものと推察される。

そのほか、生産活動が窺える遺物としては、第６・７・11・12 号住居跡から出土している管状土錘や第 12 号住居跡で検出された鉄鎌があげられる。砥ぎ減りした刃部をもつ鉄鎌などは、当時の使用状況を表現しており、土器生産以外の漁撈・農耕といった当時の生活の様子が垣間見える。

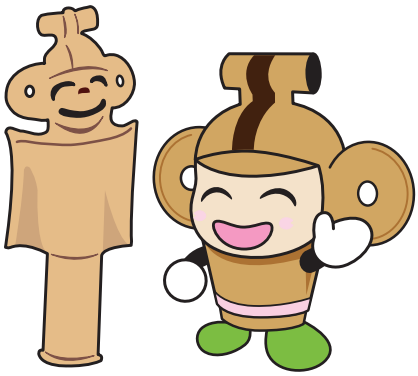
本遺跡のある小島周辺は、古代の賀美（加美）郡と児玉郡の境界付近にあたる地域と推定されている。本遺跡でみられる集落が当時どちらの郡に属していたかは定かではないが、土師器生産を担った集落が本庄台地縁辺部で、しかも古代の郡境界周辺域に位置することは興味深い。

２．第 12 号住居跡出土の石製品について

第 12 号住居跡覆土中から出土している石製品は、その形態的特徴から古墳時代に帰属するものである。石製勾玉（第 37 図 12）は丸みをもつ小型品で、前期末から中期前半に盛行する形態である。剣形石製品（第 37 図 13）は両端が欠損しているが、身と茎を明瞭な関で区画し、身の両面に鎬を表現する篠原分類Ⅰ－Ａ類と考えられる。Ⅰ－Ａ類の剣形石製品は、奈良県佐味田宝塚古墳・三重県石山古墳･岡山県金蔵山古墳など前期末から中期前葉の古墳のほか、祭祀遺跡でも出土することがある。埼玉県内では美里町こぶヶ谷戸遺跡出土品があげられ、深谷市本郷前東遺跡の中期前葉の剣形石製品もⅠ－Ａ類に近い形態である。本遺跡の剣形石製品は長さ 19.7cm の群馬県前橋市総社付近出土品と似ており、埼玉県における石製模造品出現期に位置づけられている万年寺つつじ山古墳とほぼ同時期のものと考えられる。

【参考文献】
太田博之　2006 『旭・小島古墳群－林地区Ⅰ－』本庄市埋蔵文化財調査報告書第３集　本庄市教育委員会
太田博之　2014 『石神境遺跡　天神林Ⅱ遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 38 集　本庄市教育委員会
小此木真理　2019 『小島仕切沢遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 60 集　本庄市教育委員会
かみつけの里博物館　2017 『小さな石のものがたり　石製模造品からみる群馬の古墳時代』第 26 回特別展図録　かみつけの里博物館
河野一隆　2002「石製模造品」『考古資料大観』 第９巻　小学館
大江正行ほか　2004 『下滝天水遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第 329 集
篠原祐一　1997 「石製模造品剣形の研究」『祭祀考古学』創刊号　祭祀考古学会
鈴木徳雄　1983 「古代武蔵における土師器製作技法の画期」『土曜考古』第７号　土曜考古学研究会
　　1984 「いわゆる北武蔵系土師器坏の動態」『土曜考古』第９号　土曜考古学研究会
外尾常人　2007 『北稲塚第Ⅱ地点遺跡』 上里町教育委員会
髙橋健自　1919 『古墳発見石製模造器具の研究』帝室博物館学報　第一冊　帝室博物館
増田逸朗　1993 「埼玉県の祭祀遺跡」『古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物－』第Ⅱ分冊　東日本埋蔵文化財研究会
松本完ほか　2019 『薬師堂東遺跡Ⅱ（Ｃ・Ｄ地点）』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 58 集　本庄市教育委員会
丸山修　1997 『田通遺跡』上里町埋蔵文化財発掘調査報告書第７集　上里町教育委員会
丸山修　2018 『北稲塚遺跡』上里町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集　上里町教育委員会

写　真　図　版



本庄市マスコット

はにぽん

小島仕切沢南遺跡Ａ地点遠景（西より）

小島仕切沢南遺跡Ａ地点全景（左下が北）

図版 2

第１号住居跡

第２号住居跡

第２号住居跡カマド

第３号住居跡

第４号住居跡

第５号住居跡

第６号住居跡

第６号住居跡カマド

第 7 号住居跡

第 7 号住居跡 P1 遺物出土状況

第 8 号住居跡

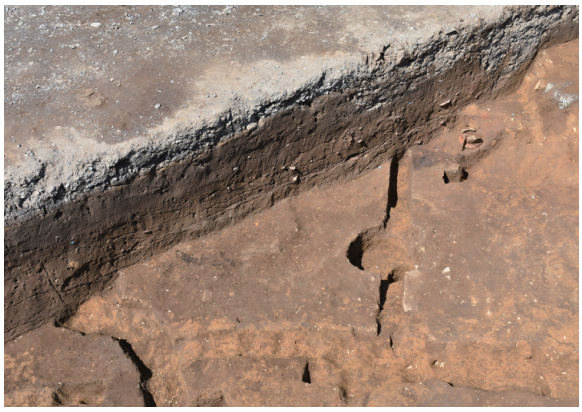
第 8 号住居跡カマド

第 9 号住居跡

第 10 号住居跡

第 10 号住居跡カマド

第 10 号住居跡遺物出土状況



第 11 号住居跡

第 11 号住居跡カマド

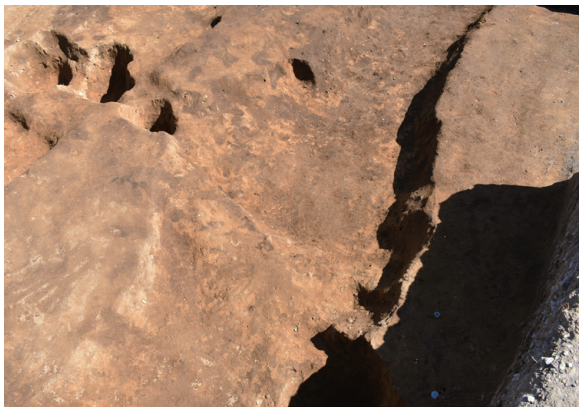
第 11 号住居跡カマド出土遺物近景

第 12・13 号住居跡

第 12 号住居跡遺物出土状況

第 12 号住居跡出土遺物近景

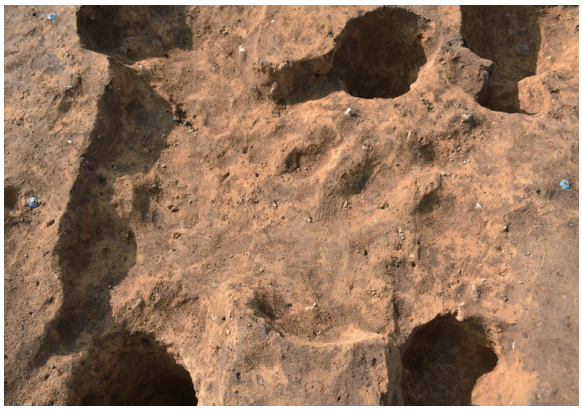
第 1 号掘立柱建物跡



第 1 号土坑

第２号土坑

第４号土坑



第５号土坑

第６号土坑

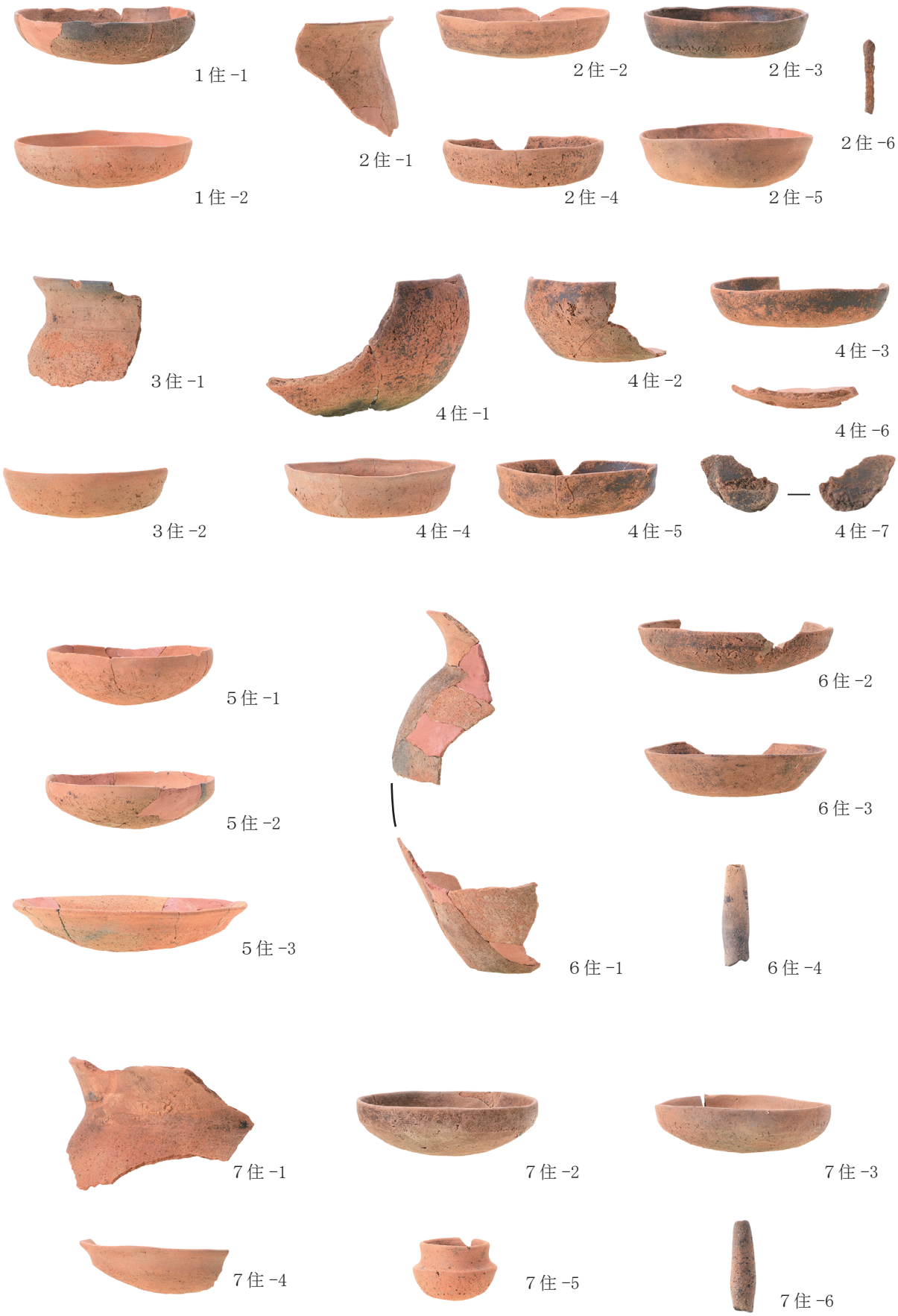
第１・２号溝跡

第３・４号溝跡

Ａ区ピット群

Ｂ区ピット群

図版 6


1 住 -1
2 住 -1
2 住 -2
2 住 -3
2 住 -6
1 住 -2
2 住 -4
2 住 -5
3 住 -1
4 住 -1
4 住 -2
4 住 -3
4 住 -6
3 住 -2
4 住 -4
4 住 -5
4 住 -7
5 住 -1
6 住 -2
5 住 -2
6 住 -3
5 住 -3
6 住 -1
6 住 -4
7 住 -1
7 住 -2
7 住 -3
7 住 -4
7 住 -5
7 住 -6

8 住 -1

8 住 -2

8 住 -4

8 住 -5

8 住 -6

8 住 -3

8 住 -7

9 住 -1

10 住 -1

10 住 -2

10 住 -3

10 住 -4

10 住 -5

10 住 -6

10 住 -7

11 住 -1

11 住 -2

11 住 -3

11 住 -4

11 住 -6

11 住 -5

図版 8

12 住 -1

12 住 -2

12 住 -3

12 住 -4

12 住 -5

12 住 -6

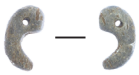
12 住 -7

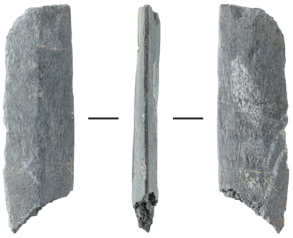
12 住 -8

12 住 -9

12 住 -10

12 住 -11


12 住 -12


12 住 -13

12 住 -14

2 土 -1

調査区内 -1

調査区内 -2

調査区内 -3

P -21-1

調査区内 -4

調査区内 -5

報　告　書　抄　録

フリガナ	オジマシキリザワミナミイセキ　ーエーチテンノチョウサー		
書　　名	小島仕切沢南遺跡　－Ａ地点の調査－		
副 書 名	分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻　次	第 74 集
編著者名	的野善行・宮田忠洋・車﨑正彦		
編集機関	本庄市教育委員会		
所 在 地	〒 367-8501　埼玉県本庄市本庄３丁目５番３号　　TEL 0495-25-1185		
発 行 日	西暦 2023 年（令和５年）７月 19 日		

フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡	(°　′　″)	(°　′　″)			
小島仕切沢南遺跡Ａ地点（オジマシキリザワミナミ イセキ エーチテン）	埼玉県本庄市（サイタマケンホンジョウシ） 小島六丁目（オジマロクチョウメ） 1351、1353-1,2,5	112119	53-012	36°　24′　72″	139°　17′　57″	20230209 ～ 20230320	170 ㎡	分譲住宅建設

	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	集　落	縄　文 古　墳 飛　鳥 奈　良 平　安 近 現 代 時期不詳	住居跡　13 軒 掘立柱建物跡　１棟 土坑　６基 溝跡　４条 ピット　84 基	縄文土器（諸磯ｂ式・不明） 石製品（勾玉・剣形） 土師器（甕・小形甕・鉢・坏・高坏・小形壺・削りくず）、須恵器（坏・蓋・甕）、土製品（土錘・焼成粘土塊）、鉄製品（鏃・鎌） 陶器（灯明皿） ガラス製品（薬瓶）	飛鳥時代（７世紀後半）～平安時代（９世紀前半）の竪穴住居跡を検出した。

本庄市埋蔵文化財調査報告書第 74 集

小　島　仕　切　沢　南　遺　跡

－Ａ地点の調査－

令和５年　７月　12 日　印刷

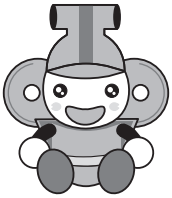
令和５年　７月　19 日　発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄３丁目５番３号

印刷／朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町 67 番地



本庄市マスコット

はにぽん